

案件要約表 (M/P+F/S)

ASE IDN/S 203A/81

作成1986年 3月
改訂1992年 3月

| I. 調査の概要 | | II. 調査結果の概要 | | | | III. 調査結果の活用の現状 | | |
|-----------------------------|---|---|----------------|-----|----------|----------------------|--|---------|
| 1. 国名 | インドネシア | 1. サイト 又はエリア | 西イリアン、イリアンジャヤ州 | | | 1. プロジェクト の現況(区分) | <input checked="" type="checkbox"/> 進行・活用 <input type="checkbox"/> 遅延 <input type="checkbox"/> 中止・消滅 | |
| 2. 調査名 | ソロン港整備計画 | 2. プロジェクト /計画予算 (US\$1,000) US\$1=Rp625 | 1) 11,059 | 内貨分 | 1) 4,586 | 2) 2) | (状況) 引き続きF/Sが実施された。 | |
| 3. 分野分類 | 運輸・交通/港湾 | | 2) | 外貨分 | | | | |
| 4. 分類番号 | | 3. 主な提案プロジェクト | | | | | | |
| 5. 調査の種類 | M/P+(F/S) | 西イリアン西端部のソロン港の拡張整備を図る。2000年目標の長期開発構想の主な事業は 西港区 1バース新設 既存コンクリート棧橋延伸 木製棧橋改築 東港区 6バース平行埠頭新設 | | | | | | |
| 6. 相手国の 担当機関 | 海運総局 Directorate General of Sea Communications | 中期整備計画の主な事業は 既存コンクリート岸壁隣接大型岸壁1バース、上屋1棟の建設 タグボート1隻、フォークリフト2台の購入 | | | | | | |
| 7. 調査の 目的 | 2000年を目標年次とするM/P 1985年を目標年次とする港湾整備にか かるF/S | | | | | | | |
| 8. S/W締結年月 | 1980年 3月 | 4. 条件又は開発効果 | | | | | | |
| 9. コンサルタント | (財) 国際臨海開発研究センター | インドネシア国マルク州及びイリアンジャヤ州は生活物資の輸送のほとんどを海上輸送に頼っ ている。現在、この両州の内貿港の核としてはマルク州のアンボン港ただ1つであり、対象地 域があまりにも広すぎる。したがって本プロジェクトを実施することにより内貿港の核を1つ 増加し、物資の流通をスムーズにすると共に将来予測される内貿及び外貿貨物量の増加に対処 する。 | | | | | | |
| 10. 調査団 | 団員数 7 調査期間 1980.5-1981.5(12ヵ月) 延べ人月 54.58 国内 31.50 現地 23.08 | | | | | | | 2. 主な理由 |
| 11. 付帯調査・ 現地再委託 | | | | | | | | |
| 12. 経費実績 総額 コンサルタント経費 | 121,228 (千円) 122,811 | 5. 技術移転 ①研修員受け入れ：3名に対しF/S技法の研修を実施した。 ②共同で報告書作成：日本においてドラフト・ファイナル・レポート等の作成作業をOCDI メンバーと共同で実施した。 | | | | 3. 主な情報源 ① | | |

外国語名 Development Project of the Port of Sorong

[M/P, M/P+(F/S), 基礎調査, その他]

案件要約表 (M/P+F/S)

ASE IDN/S 203B/81

作成1986年 3月
改訂1992年 3月

| I. 調査の概要 | | II. 調査結果の概要 | | | | III. 調査結果の活用の現状 | | |
|-----------------------------|--|---|---|--------------|----------|---|--|-------|
| 1. 国名 | インドネシア | 1. サイト 又はエリア | 西イリアン、イリアンジャヤ州 | | | 1. プロジェクトの現況(区分) <input type="checkbox"/> 実施済・進行中 <input checked="" type="checkbox"/> 具体化準備中 <input type="checkbox"/> 実施済 <input type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 具体化進行中 <input type="checkbox"/> 遅延・中断 <input type="checkbox"/> 中止・消滅 | | |
| 2. 調査名 | ソロン港整備計画 | 2. プロジェクト 予算 (US\$1,000) US\$1=Rp625 | 1) 11,059 | 内貨分 | 1) 4,586 | | | 2) 3) |
| 3. 分野分類 | 運輸・交通/港湾 | 3. 主要事業内容 | 内容(中期開発計画) 規模 岸壁 L: 180m, D: -10m 上屋 40m×100m 野積場 2,900平方m | | | | | |
| 4. 分類番号 | | 3. 主要事業内容 | | | | | | |
| 5. 調査の種類 | (M/P)+F/S | 3. 主要事業内容 | | | | | | |
| 6. 相手国の 担当機関 | 海運総局 | 3. 主要事業内容 | | | | | | |
| 7. 調査の 目的 | 2000年を目標年次とするM/P 1985年を目標年次とする港湾整備にか かるF/S | 3. 主要事業内容 | | | | | | |
| 8. S/W締結年月 | 1980年 3月 | 計画事業期間 | 1) 1982.2-1984.12 | 2) | | (状況) F/S修了後中断 1985年 オランダの援助によりF/Sの見直しを行った。 現在 事業実施について、オランダに要請中。 F/Sを実施してからかなり時間がたっていること及び海運政策が最近変更されたこと もあった。 | | |
| 9. コンサルタント | (財) 国際臨海開発研究センター | 4. フィージビリティ とその前提条件 | EIRR 1) 18.60 | FIRR 1) 3.20 | 2) 3) | | | |
| 10. 調査団 | 団員数 7 | 条件又は開発効果 | 前提条件として、イリアンジャヤ州のGRDPの伸びは1978-85:5.1%, 1978-2000:0.5%, マルク州のGRDPの伸びは同期間中のそれぞれ11.2%, 6.7%, ソロン地区の人口伸び率1978-2000:2.5%、本プロジェクトの総投資額の41%をインドネシア政府の国家開発基金で賄う。 開発効果として、インドネシア国マルク州及びイリアンジャヤ州は生活物資の輸送のほとんどを海上輸送に頼っており、現在この両州の内貨港の核としてはマルク州のアンボン港ただ1つであり、対象地域があまりにも広すぎるので、本プロジェクトを実施することにより内貨港の核を1つ増加し、物資の流通をスムーズにすると共に将来予測される内貨及び外貨貨物量の増加に対処する。 | | | | | |
| | 調査期間 1980.5-1981.5(12ヵ月) | | | | | | | |
| | 延べ人月 国内 54.58 現地 31.50 23.08 | | | | | | | |
| 11. 付帯調査・ 現地再委託 | なし | 5. 技術移転 | ①研修員受け入れ：カウンターパート3名に対し、F/S技法の研修を実施した。 ②共同で報告書作成：日本においてドラフト・ファイナル・レポート等の作成作業をOCDIメンバーと共同で実施した。 | | | | | |
| 12. 経費実績 総額 コンサルタント経費 | 121,228 (千円) 122,811 | | | | | | | |
| | | | | | | 2. 主な理由 3. 主な情報源 ① | | |

外国語名 Development Project of the Port of Sorong

{F/S,M/P+(F/S),D/D}

案件要約表 (M/P+F/S)

ASE IDN/S 202A/81

作成1986年 3月
改訂1992年 3月

| I. 調査の概要 | | II. 調査結果の概要 | | | | III. 調査結果の活用の現状 | | |
|--------------------|---|---|---|-----|-----------------|----------------------|--|---|
| 1. 国名 | インドネシア | 1. サイト 又はエリア | ジャカルタのCengkareng地区 | | | 1. プロジェクト の現況(区分) | <input checked="" type="checkbox"/> 進行・活用 <input type="checkbox"/> 遅延 <input type="checkbox"/> 中止・消滅 | |
| 2. 調査名 | ローコスト住宅開発計画 | 2. プロジェクト /計画予算 (US\$1,000) US\$1=613Rp=205 円 | 1) 67,063 | 内貨分 | 1) 67,063 2) | | | |
| 3. 分野分類 | 社会基盤/建築・住宅 | 3. 主な提案プロジェクト | 本事業の基本方針は、入居対象のより低い階層に中層住宅、2階建フラット住宅、より高い階層に増築可能なメゾネット型、連棟型住宅を供給することである。 事業規模：110haの区域に、7,500戸の住宅で、45,000人の人口を収容する都市開発事業。最終的には370haの地区総合開発を考慮している。 | | | | (状況) 都市開発は緊急課題のひとつであり、ローコスト住宅による住宅の大量供給構想は相手国関係者から非常に高い評価を得た。引き続きF/Sが実施された。 | |
| 4. 分類番号 | | 4. 条件又は開発効果 | | | | | | |
| 5. 調査の種類 | M/P+(F/S) | 9. コンサルタント | | | | | | (株) 日本設計 |
| 6. 相手国の 担当機関 | 都市開発公団 National Urban Development Corporation | 10. 調査団 | | | | | | 団員数 14 調査期間 1979.10-1981.2(17ヵ月) 延べ人月 国内 78.83 現地 56.29 現地 22.54 |
| 7. 調査の 目的 | Cengkareng地区の住宅地開発と同地区 における中層住宅の建設計画 | 11. 付帯調査・ 現地再委託 | | | | | | なし |
| 8. S/W締結年月 | 1979年 2月 | 12. 経費実績 | | | | | | 総額 187,718 (千円) コンサルタント経費 178,461 |
| 9. コンサルタント | (株) 日本設計 | 5. 技術移転 | | | | | | ①OJT：現地で住宅事情等の調査を共同実施。 ②研修員の受入：合計5人の技術者がJICAの技術研修で来日し、当社においても都市計画や住宅設計の実習を行った。 |
| 10. 調査団 | | 3. 主な情報源 | | | | | | (1) |
| 11. 付帯調査・ 現地再委託 | なし | 2. 主な理由 | | | | | | |

外国語名 Low Cost Housing Project in Cengkareng

{M/P, M/P+(F/S), 基礎調査, その他}

案件要約表 (M/P+F/S)

ASE IDN/S 202B/81

作成1986年 3月
改訂1992年 3月

| I. 調査の概要 | | II. 調査結果の概要 | | | | III. 調査結果の活用の現状 | |
|--------------------|---|--|---|-----|---|----------------------|--|
| 1. 国名 | インドネシア | 1. サイト 又はエリア | ジャカルタ市Cengkareng地区 | | | 1. プロジェクト の現況(区分) | <input type="checkbox"/> 実施済・進行中 <input type="checkbox"/> 具体化準備中 <input type="checkbox"/> 実施済 <input type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 具体化進行中 <input type="checkbox"/> 遅延・中断 <input type="checkbox"/> 中止・消滅 |
| 2. 調査名 | ローコスト住宅開発計画 | 2. プロジェクト 予算 (US\$1,000) US\$1=613Rp=205 円 | 1) 67,063 | 内貨分 | 1) 67,063 2) 3) | | |
| 3. 分野分類 | 社会基盤/建築・住宅 | 3. 主要事業内容 | 内容 中層住宅(5階建) 880戸 フラット住宅(2階建) 4,400戸 長屋式住宅(1階建) 1,500戸 宅地及び関連インフラストラクチャー 770戸 | | | | (状況) F/S終了後、中断。 特記事項 先進諸国及び国際援助機関においても住宅開発に関する融資は必ずしも優先度が高くないことや、インドネシアの財政事情などの経済背景を考慮する必要がある。 |
| 4. 分類番号 | | 4. フィージビリティ とその前提条件 | | | | | |
| 5. 調査の種類 | (M/P)+F/S | 9. コンサルタント | (株) 日本設計 | | 条件又は開発効果 前提条件とし、「住む、レクリエートする、就業する」という三つの生活機能を多少とも自足的に営めるような住宅団地を建設する。建設に当っては、住宅はローン購入による毎月の返済、土地 (Empty LotとCommercial Lot) については一括購入がそれぞれ前提とされる。 開発効果として、居住者にとって家計消費支出の削減、所得の増大 (就業機会や副収入を得る機会の増加)、提供される社会公共施設 (病院、教育施設、モスク等) を利用できる機会の増加等があげられる。その他、建設期間中及び建設期間後の雇用拡大効果、建設産業における生産性向上効果、計画地区周辺への安定的な労働力の供給も考えられる。 | | |
| 6. 相手国の 担当機関 | 都市開発公団 National Urban Development Corporation | 10. 調査団 | 団員数 | 14 | | | |
| 7. 調査の 目的 | Cengkareng地区の住宅地開発と同地区 における中層住宅の建設計画 | 調査期間 | 1979.10-1981.2(17ヵ月) | | | | |
| 8. S/W締結年月 | 1979年 2月 | 延べ人月 | 78.83 | 国内 | 56.29 | 3. 主な情報源 (1) | |
| 9. コンサルタント | (株) 日本設計 | 現地 | 22.54 | なし | | | |
| 10. 調査団 | | 11. 付帯調査・ 現地再委託 | なし | | | | |
| 11. 付帯調査・ 現地再委託 | | 12. 経費実績 総額 コンサルタント経費 | 187,718 (千円) 178,461 | | 5. 技術移転 ①OJT: 現地で住宅事情の調査を共同実施。 ②研修員の受け入れ: 合計5人の技術者がJICAの技術研修で来日し、当社においても都市計画や住宅設計の実習を行った。 | | |

外国語名 Low Cost Housing Project in Cengkareng

[F/S,M/P+(F/S),D/D]

案件要約表 (F/S)

ASE IDN/S 317/81

作成 1986年 3月
改訂 1992年 3月

| I. 調査の概要 | | II. 調査結果の概要 | | | | III. 調査結果の活用の現状 | | | |
|-----------------------------|--|--|--|---------------|------------|--|--|---|--|
| 1. 国名 | インドネシア | 1. サイト 又はエリア | ジャカルタ | | | 1. プロジェクトの現況(区分) <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 5px;"> <input checked="" type="checkbox"/> 実施済・進行中 <input type="checkbox"/> 具体化準備中 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 5px;"> <input type="checkbox"/> 実施済 <input type="checkbox"/> 遅延・中断 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 5px;"> <input type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 中止・消滅 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 5px;"> <input checked="" type="checkbox"/> 具体化進行中 <input type="checkbox"/> 中止・消滅 </div> | | | |
| 2. 調査名 | ジャカルタ湾岸道路計画 | 2. プロジェクト 予算 (US\$1,000) US\$1=210円 | 1) 730,000 | 内貨分 | 1) 480,000 | | | 2) 3) | |
| 3. 分野分類 | 運輸・交通/道路 | 3. 主な事業内容 | <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>内容</p> <p>全長 (6車及び4車)</p> <p>橋梁 (4車)</p> <p>連続高架橋 (4車)</p> <p>インターチェンジ</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>規模</p> <p>20.7km</p> <p>15橋 (4.0km)</p> <p>3.3km</p> <p>7カ所 (大/小)</p> </div> </div> | | | | | | |
| 4. 分類番号 | | | | | | | | | |
| 5. 調査の種類 | F/S | | | | | | | | |
| 6. 相手国の 担当機関 | 公共事業省道路総局計画局 Directorate of Planning, Directorate General of Highways, Min. of Public Works | | | | | | | | |
| 7. 調査の 目的 | 道路計画 | | | | | | | | |
| 8. S/W締結年月 | 1980年 2月 | 計画事業期間 | 1) 1986.0-1993.0 | 2) | 3) | (状況) 1983.9 OECF融資、L/A 締結 (E/S. 12.1億円) 1986.9 F/S 見直し終了。 1987.秋 詳細設計終了。 建設に関しては一部OECFローン (90/91) を採用し、実施予定であるが、湾岸道路のほとんどはBOT方式で実施すべく準備中との事。 1990.12 建設に関し一部OECFローンを受け、92年5月建設開始予定。残り湾岸道路のほとんどはBOT方式で実施すべく準備中である。 特記事項 詳細設計業務は、Phase I、Phase IIに分かれており、Phase IIは主に見直しF/S、Phase IIは設計業務。 Phase I Report の Alternative Route Study で次の Alternative "A"、"B" の2つの案が挙げられた。 Alternative "A" : (Revised scheme of JICA/Bina Marga Study) 8.7km の高架区間含む。 Alternative "B" : (Canal route scheme) 10.9km の高架区間含む。 | | | |
| 9. コンサルタント | (株) パシフィックコンサルタンツ | 4. フィービリティ とその前提条件 | EIRR 1) 10.95 | FIRR 1) 12.80 | 2) 3) | | | 2. 主な理由 ①効果の大きさ：主要施設を一貫できる。②継続的要因、他プロジェクトとの関連性：ジャカルタ首都圏有料道路網の一部をなしている。③優先度の高さ、④推進体制の強さ：道路総局は資金調達力、組織力とも強い、⑤我が国民間ベースでのバックアップ：ジャカルタ首都圏有料道路網をスタディ/プロジェクト両方バックアップしてきた。 | |
| 10. 調査団 | 団員数 12 | 条件又は開発効果 | 高速規格の6車線有料道路を前提とし、パーソン・トリップベースより交通量予測を行った (1990,2000,2010年)。ジャカルタ首都圏全体ネットワークへのシミュレーション配分を実施し、比較案を実施計画、財政条件など多くの要因で検討した。 開発効果として、新空港、広域リクリエーション地区、外貿港湾、工業地帯を通過する、産業交通・業務交通の道路として、開発促進と共に港湾地区と都市部との物理的バリアーにもなりうる。また、後背部に都市センターの開発を可能にする。 | | | | | | |
| 調査期間 | 1980.8-1981.11(16ヵ月) | | | | | | | | |
| 延べ人月 | 国内 44.84 現地 44.59 | | | | | | | | |
| 11. 付帯調査・ 現地再委託 | 測量 地質調査 | | 5. 技術移転 ①研修員受け入れ：JICAによるカウンターパート研修 ②現地コンサルタントの活用：地形及び土質分析 ③機材供与及び指導：Computerの現地使用により、担当官庁スタッフとの共同作業に努めた。 | | | | | | |
| 12. 経費実績 総額 コンサルタント経費 | 227,721 (千円) 215,003 | | | | | 3. 主な情報源 ① | | | |

外国語名 Jakarta Harbour Road Project

[F/S,M/P+(F/S),D/D]

案件要約表 (F/S)

ASE IDN/S 318/81

作成 1986年 3月
改訂 1992年 3月

| I. 調査の概要 | | II. 調査結果の概要 | | | | III. 調査結果の活用の現状 | | |
|--------------------|--|--|--|------------------------|--|--|--|--|
| 1. 国名 | インドネシア | 1. サイト 又はエリア | スマトラ島 | | | 1. プロジェクト の現況(区分) | <input checked="" type="checkbox"/> 実施済・進行中 <input type="checkbox"/> 具体化準備中 <input type="checkbox"/> 実施済 <input type="checkbox"/> 実施中 <input checked="" type="checkbox"/> 具体化進行中 <input type="checkbox"/> 遅延・中断 <input type="checkbox"/> 中止・消滅 | |
| 2. 調査名 | パダン空港整備計画 | 2. プロジェクト 予算 (US\$1,000) US\$1=220円 | 1) 70,000 2) 25,000 3) | 内貨分 | 1) 2) 3) 25,000 | | | |
| 3. 分野分類 | 運輸・交通/航空・空港 | 3. 主な事業内容 | 内容 滑走路 2,500m×45m 誘導路 2,500m×23m 他直行誘導路 ターミナルビル 2層式 エプロン 8バース 航空保安施設一式 燃料貯蔵施設他 | | | | (状況) 1985.2 OECF E/S融資 L/A締結 (7.8億円) 1987.7 E/S開始 1989.5 E/S完了 1990.3 建設工事に対するOECFローン要請 1991.3 | |
| 4. 分類番号 | | 3. 内容 | | | | | | |
| 5. 調査の種類 | F/S | 8. S/W締結年月 | 1981年 2月 | 計画事業期間 | 1) 1984.4-1996.12 2) 3) | 2. 主な理由 ①効果の大きさ：新空港の建設により大型ジェット機の就航が可能となり、首都との結びつきが強まる。また、同地の豊富な労働力を生かした輸出指向工業の誘導により地域開発の核となることが期待される。②優先度の高さ：パダン空港はインドネシア国内における主要15空港のうちの1空港であるが、他空港に比べ整備がおくれており緊急度は極めて高い。 | | |
| 6. 相手国の 担当機関 | 航空総局 Directorate General of Air Communications(DGAC) | 9. コンサルタント | (株) パシフィックコンサルタンツ | 4. フィージビリティ とその前提条件 | EIRR 1) 45.40 2) 3) FIRR 1) 2) 3) | | | |
| 7. 調査の 目的 | 航空輸送需要予測 空港整備計画 | 10. 調査団 | 団員数 10 調査期間 1981.6-1982.1(8ヵ月) 延べ人月 国内 38.31 現地 19.80 18.51 | 条件又は開発効果 | 前提条件として、パダン空港は周囲の地形からみても拡張性に乏しく、将来の航空需要の増大に対応することは困難と判断される。このため、同空港の北西約15kmの地点と新空港の適地として勧告した。新空港の規模は第一期において1995年、第二期において2005年の航空需要に対応するものとした。 開発効果として、新空港が建設されると航空機の運行がスムーズとなり、また、DC-10クラスの航空機の運行が実現し、増大している航空需要に十分に対応可能となる。この結果、国内交流を促進し、地域経済の開発、格差解消経済の均衡、消費財生産工業等地域産業の振興による民生の安定に大いに役立つことと期待されている。 | | | |
| 11. 付帯調査・ 現地再委託 | 地質調査 ボーリング 粒度分析、他 | 12. 経費実績 総額 コンサルタント経費 | 97,114 (千円) 87,141 | 5. 技術移転 | ① ①OIT: 現地済在中、カウンターパート及び関係者に対し、報告書の内容及びテーマを定めて検討会を数回催した。②研修員受け入れ: JICA個別研修により来日したカウンターパートに対し、調査・検討の方法・過程を詳しく説明し、日本国内での実状についても説明した。 | | | |

外国語名 Padang Airport Development

[F/S,M/P+(F/S),D/D]

案件要約表 (F/S)

ASE IDN/S 314/81

作成1986年 3月
改訂1992年 3月

| I. 調査の概要 | | II. 調査結果の概要 | | | | III. 調査結果の活用の現状 | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------|--|--------------------------------|--|-----|--|--|----|-----------------|--|--------|----|--------|----|-----------|--|-------|------|--------|-----|--|--|
| 1. 国名 | インドネシア | 1. サイト 又はエリア | 国内全域26局 | | | 1. プロジェクトの現況(区分) <input checked="" type="checkbox"/> 実施済・進行中 <input type="checkbox"/> 具体化準備中 <input checked="" type="checkbox"/> 実施済 <input type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 具体化進行中 <input type="checkbox"/> 遅延・中断 <input type="checkbox"/> 中止・消滅 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. 調査名 | 沿岸無線通信網整備拡充計画 | 2. プロジェクト 予算 (US\$1,000) | 1) 11,357 | 内貨分 | 1) 1,357 | | | 2) 3) | | | | | | | | | | | | | |
| 3. 分野分類 | 通信・放送/電気通信 | 3. 主要事業内容 | <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">内容</td> <td style="width: 40%;">規模</td> </tr> <tr> <td>短期整備プログラム</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 海岸局施設</td> <td style="text-align: center;">8局</td> </tr> <tr> <td> 海難救助施設</td> <td style="text-align: center;">9局</td> </tr> <tr> <td>長期整備プログラム</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 海岸局施設</td> <td style="text-align: center;">222局</td> </tr> <tr> <td> 海難救助施設</td> <td style="text-align: center;">30局</td> </tr> </table> | | | 内容 | 規模 | 短期整備プログラム | | 海岸局施設 | 8局 | 海難救助施設 | 9局 | 長期整備プログラム | | 海岸局施設 | 222局 | 海難救助施設 | 30局 | (状況) 1981年9月 OECF融資L/A締結 (沿岸無線整備、23億円) 1985年2月 OECF融資L/A締結 (沿岸無線整備II、36億円) 1990年8月 完了 | |
| 内容 | 規模 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 短期整備プログラム | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 海岸局施設 | 8局 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 海難救助施設 | 9局 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 長期整備プログラム | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 海岸局施設 | 222局 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 海難救助施設 | 30局 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 分類番号 | | 4. フィージビリティ とその前提条件 | EIRR 1) 2) 3) | | FIRR 1) 2) 3) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. 調査の種類 | F/S | 条件又は開発効果 | 前提条件として老朽化した施設の近代化を計るため、海岸局の階級の見直し、無線通信システムの整備、海難救助システムの整備、保守センターの新設、将来全地域をカバーするためのインマルサットシステムの利用を計るための地球局の設置を計画している。 開発効果として、本計画は長期的展望にたった計画であり、国内の港湾建設計画及び沿岸船舶の海難防止とその事故発生に伴う迅速な救助活動を容易にした。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. 相手国の 担当機関 | 海運総局 Directorate General of Sea Communications | 8. S/W締結年月 | | | | | | 1981年 2月 | | 計画事業期間 | | | | | | | | | | | |
| 7. 調査の 目的 | インドネシアにおける海上通信の長期 開発計画の第1段階としての沿岸無線 通信網のフィージビリティ調査 | 9. コンサルタント | 日本通信協力(株) 国際電信電話(株) | | 2. 主な理由 ①効果の大きさ：港湾建設計画等への通信システム整備による効果が大きい。 ②推進体制の強さ：海運総局は交通運輸通信観光省の中でも長い歴史と実績を持つ。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10. 調査団 | 団員数 7 調査期間 1981.2-1981.3(1ヵ月) 延べ人月 国内 2.00 現地 0.73 | 11. 付帯調査・ 現地再委託 | なし | | | | | 3. 主な情報源 (1) | | | | | | | | | | | | | |
| 12. 経費実績 総額 コンサルタント経費 | 12,623 (千円) 6,061 | 5. 技術移転 | ①研修員の受け入れ：カウンターパート3名を日本に招聘し計画の内容について指導。 ②カウンターパートに対し、OJTを実施。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

外国語名 Coastal Radio Communications

[F/S, M/P + (F/S), D/D]

案件要約表 (F/S)

ASE IDN/S 315/81

作成 1986年 3月
改訂 1992年 3月

| I. 調査の概要 | | II. 調査結果の概要 | | | | III. 調査結果の活用の現状 | |
|-----------------------------|--|--|---|---------------------|--|---|--|
| 1. 国名 | インドネシア | 1. サイト 又はエリア | ジャカルタ首都圏 | | | 1. プロジェクトの現況(区分) <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 5px;"> ■ 実施済・進行中 □ 具体化準備中 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 5px;"> ● 実施済 □ 遅延・中断 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 5px;"> ○ 実施中 □ 中止・消滅 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 5px;"> ○ 具体化進行中 </div> | |
| 2. 調査名 | ジャカルタ首都圏電話網整備 拡充計画 | 2. プロジェクト 予算 (US\$1,000) | 1) 181,600 | 内貨分 | 1) 23,100 | | |
| 3. 分野分類 | 通信・放送/電気通信 | 3. 主な事業内容 | 2) 外貨分 | 158,500 | (状況) 1985年2月 OECF融資 I/A 締結 (ジャカルタ市内電話網拡張II, 56億円) 1991年1月現在 建設中。 1991年5月 完了。 特記事項 「ジャカルタ市内電話網拡充計画調査」(昭和48年度～50年度実施)に基づき、ジャカルタ市電話網設備のフェーズIは完了。 OECF融資 I/A 締結39.6億円 (1981年9月)。 | | |
| 4. 分類番号 | | 既設設備を考慮して、局舎、交換機、中継網、市内網の増設計画を設定した。 | | | | | |
| 5. 調査の種類 | F/S | ①局舎の建設 ②交換設備の建設 ③ケーブルの敷設；一次ケーブル、二次ケーブル、切替盤、中継ケーブル装荷線輪を含む。 ④土木工事；マンホールと管路工事 ⑤PCM方式の工事；PCM端局装置、PCM局内中継装置、PCMマンホール中継装置、PCM中継盤を含む。 | | | | | |
| 6. 相手国の 担当機関 | インドネシア政府郵電総局 電気通信公社 POSTEL PERUMTEL | | | | | | |
| 7. 調査の 目的 | 長期計画の見直し、第3次通信網拡充 5ヵ年計画における局外増設計画、 ジャカルタ市内の数局の基本設計 | | | | | | |
| 8. S/W締結年月 | 1978年 12月 | 計画事業期間 | 1) 1981.0-1986.0 | 2) | | | |
| 9. コンサルタント | 日本通信協力(株) | 4. フィージビリティ とその前提条件 | EIRR 1) 2) 3) | FIRR 1) 2) 3) | | | |
| 10. 調査団 | 団員数 11 調査期間 1979.6-1981.2(20ヵ月) 延べ人月 国内 112.26 現地 28.83 83.43 | 条件又は開発効果 | 電話需要の予測における前提条件として、一人当たりのGDPの伸びを4.5%とし、人口予測は1977年版のインドネシア統計年鑑にもとづいた。開発効果として、長期計画では現在の電話設備および工事能力を勘案して、1987年迄に段階的に電話設備の拡張をはかり、1987年以降は加入者の100%充足を達成する。 | | | | |
| 11. 付帯調査・ 現地再委託 | なし | | | | | | |
| 12. 経費実績 総額 コンサルタント経費 | 250,159 (千円) 249,545 | 5. 技術移転 | ①カウンターパートに対し、OJTを実施。 ②研修員の受け入れ：カウンターパート2名を日本に招聘し、計画内容について指導。 ③カウンターパートと共同で報告書の一部を作成。 ④現地コンサルタントの活用(測量、報告書の作成及び工事図面の作成)。 | | | | |
| | | | | | 2. 主な理由 ①プロジェクト実現による効果の大きさ ②相手国にとってプライオリティの高さ | | |
| | | | | | 3. 主な情報源 (1) | | |

外国語名 Improvement of Telephone Network in the City of Jakarta

{F/S, M/P + (F/S), D/D}

案件要約表 (F/S)

ASE IDN/S 316/81

作成 1986 年 3 月
改訂 1992 年 3 月

| I. 調査の概要 | | II. 調査結果の概要 | | | | III. 調査結果の活用の現状 | | | | | | | | |
|-----------------------------|--|--------------------------------|---|-----|-----------|----------------------|---------------------------------|-----------------|--------------|-------------------------|-------|----------------------------------|--|--|
| 1. 国名 | インドネシア | 1. サイト 又はエリア | メダン市 (北スマトラ州) 及びウジュンパンダン市 (南スラウェシ州) の周辺地域 | | | 1. プロジェクト の現況(区分) | | | | | | | | |
| 2. 調査名 | 地方都市周辺電気通信網整備計画 | 2. プロジェクト 予算 (US\$1,000) | 1) 73,913 | 内貨分 | 1) 33,970 | | | 2) 3) | | | | | | |
| 3. 分野分類 | 通信・放送/電気通信 | 3. 主要事業内容 | <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 30%;">内容</td> <td style="width: 70%;">規模</td> </tr> <tr> <td>電話交換局及び加入者設備</td> <td>北スマトラ 48局 南スラウェシ 48局</td> </tr> <tr> <td>伝送路設備</td> <td>北スマトラ 53区間 南スラウェシ 25区間 その他</td> </tr> </table> | | | | 内容 | 規模 | 電話交換局及び加入者設備 | 北スマトラ 48局 南スラウェシ 48局 | 伝送路設備 | 北スマトラ 53区間 南スラウェシ 25区間 その他 | <input type="checkbox"/> 実施済・進行中 <input type="checkbox"/> 具体化準備中 <input type="checkbox"/> 実施済 <input type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 具体化進行中 <input type="checkbox"/> 遅延・中断 <input type="checkbox"/> 中止・消滅 | |
| 内容 | 規模 | | | | | | | | | | | | | |
| 電話交換局及び加入者設備 | 北スマトラ 48局 南スラウェシ 48局 | | | | | | | | | | | | | |
| 伝送路設備 | 北スマトラ 53区間 南スラウェシ 25区間 その他 | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 分類番号 | | 3. 主要事業内容 | | | | | | | | | | | | |
| 5. 調査の種類 | F/S | 6. 相手国の 担当機関 | 郵電総局及び電気通信公社 (Dijen Postel/Permtel) | | | | (状況) F/S終了後、中断。 今後の見通し不明。 | | | | | | | |
| 7. 調査の 目的 | 地方都市周辺の発展地域の電気 通信網整備計画のフィージビリティ調 査 | 8. S/W締結年月 | 1980 年 4 月 | | | 2. 主要理由 | | | | | | | | |
| 9. コンサルタント | 日本通信協力 (株) | 計画事業期間 | 1) 1981.0-1985.0 2) 3) | | | | | 3. 主要情報源 (1) | | | | | | |
| 10. 調査団 | 団員数 | 4. フィージビリティ とその前提条件 | EIRR 1) 12.00 FIRR 1) 9.20 2) 2) 2) 3) 3) 3) | | | | | | | | | | | |
| | 調査期間 | 条件又は開発効果 | 前提条件として、北スマトラ地域及び南スラウェシ地域の地方電気通信網を整備するものであるが、需要予測を計画から20年後迄とした。 開発効果として、上記の主要都市であるメダン及びウジュンパンダンは年々、地方都市の開発計画に沿って発展しているが電気通信網については遅れをとっており、このプロジェクトが実現すれば大幅に改善整備される。 | | | | | | | | | | | |
| | 延べ人月 国内 現地 | 12 13.23 1.50 11.73 | | | | | | | | | | | | |
| 11. 付帯調査・ 現地再委託 | なし | 5. 技術移転 | ① 研修員の受け入れ：技術者を日本に招聘し技術訓練を実施 ② カウンターパートに対し、OJTを実施。 | | | | | | | | | | | |
| 12. 経費実績 総額 コンサルタント経費 | 58,215 (千円) 25,261 | | | | | | | | | | | | | |

外国語名 Telecommunication Network in Developing Areas Surrounding Medan and Ujung Pandang

[F/S, M/P + (F/S), D/D]

案件要約表 (F/S)

ASE IDN/A 303/81

作成 1990年 3月
改訂 1992年 3月

| I. 調査の概要 | | II. 調査結果の概要 | | | | III. 調査結果の活用の現状 | |
|-----------------------------|-------------------------|---|---|-----|--|---|--|
| 1. 国名 | インドネシア | 1. サイト 又はエリア | 南スラウェシ州ランケメ地区 (調査地区面積 8,000ha、人口約89,000人 (79年)) | | | 1. プロジェクト の現況(区分) | <input checked="" type="checkbox"/> 実施済・進行中 <input type="checkbox"/> 具体化準備中 <input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 具体化進行中 <input type="checkbox"/> 遅延・中断 <input type="checkbox"/> 中止・消滅 |
| 2. 調査名 | ランケメかんがい開発計画 | 2. プロジェクト 予算 (US\$1,000) US\$1=Rp. 625 | 1) 21,700 | 内貨分 | 1) 11,700 2) 3) | | |
| 3. 分野分類 | 農業/農業一般 | 3. 主な事業内容 | かんがい面積: 6,400ha 頭首工: チロルタイプ20ヶ所、コンクリートタイプ1ヶ所、ジャコゴタイプ2ヶ所 用水路: 幹線30km 水路トンネル: 720m | | | | (状況) 詳細設計実施済。 資金源: OECF 1982.4.30 L/A (E/S) 3.2億円 実施コンサル: 日本工営(株)、P.T. Buana Archicon 期間: 1983.10 ~ 1985.3 事業実施中 資金源: OECF(1985.12.27 L/A 69.51億円) 施工管理会社: 日本工営(株)、P.T. Necon Ciptajasa 期間: 1988.3 ~ 1992.7 現在施工中 |
| 4. 分類番号 | | 8. S/W 締結年月 | | | | | |
| 5. 調査の種類 | F/S | 6. 相手国の 担当機関 | 公共事業省水資源総局 | | 4. フィージビリティ とその前提条件 | EIRR ¹⁾ 14.70 FIRR ¹⁾ | |
| 7. 調査の 目的 | | 9. コンサルタント | 日本工営(株) | | 条件又は開発効果 | 2. 主な理由 | |
| 8. S/W 締結年月 | 1980年 2月 | 10. 調査団 | 団員数 | 13 | [条件] 直接便益は、事業を実施した場合としない場合との生産物による年間純収益の差として算出。 | | |
| 9. コンサルタント | 日本工営(株) | 調査期間 | 1980.7-1981.3(8ヵ月) | | (開発効果) 農産物の増産、農民の生活水準の向上、等 | 3. 主な情報源 | |
| 10. 調査団 | | 延べ人月 | 47.62 | 国内 | 0.93 | | |
| 11. 付帯調査・ 現地再委託 | | 現地 | 46.69 | | | (1) | |
| 12. 経費実績 総額 コンサルタント経費 | 150,097 (千円) 141,743 | 5. 技術移転 | | | | | |

外国語名 Langkemme Irrigation Project

[F/S, M/P + (F/S), D/D]

案件要約表 (M/P)

ASE IDN/S 110/82

作成1990年 3月
改訂1992年 3月

| I. 調査の概要 | | II. 調査結果の概要 | | | | III. 調査結果の活用の現状 | |
|-----------------------------|--|---|------------|------------|-----------|--|--|
| 1. 国名 | インドネシア | 1. サイト 又はエリア | 国内全域 26局 | | | 1. プロジェクト の現況(区分) | <input checked="" type="checkbox"/> 進行・活用 <input type="checkbox"/> 遅延 <input type="checkbox"/> 中止・消滅 |
| 2. 調査名 | 海上無線通信網整備拡充計画 | 2. プロジェクト /計画予算 (US\$1,000) US\$1=¥210 | 1) 193,683 | 内貨分 | 1) 35,134 | (状況) 1984年6月 OECF融資L/A締結 (海上捜索救難通信網、43.77億円) 1988年3月現在 フェーズI整備完了済 1991年9月 OECF L/A締結 (フェーズIII) | |
| | | 2) 158,549 | 外貨分 | 2) 158,549 | | | |
| 3. 分野分類 | 通信・放送/電気通信 | 3. 主な提案プロジェクト | | | | | |
| 4. 分類番号 | | 西暦2000年までに長期展望の下にSAR (海上捜索救難に関する国際条約) を含む海上無線通信システムの開発整備を行う。①海上無線システムの整備拡充；MF及びHF帯送信機の導入、NBDP及びDSCの導入をはかる。 ②SARシステムの整備；SARオペレーションセンターを各地方に設置、SAR用海岸局の設置をはかる。 ③保守センターの設置 ④INMARSATの利用 ⑤各種装置の保守要員を要請するための教育訓練を行なう。 | | | | | |
| 5. 調査の種類 | M/P | | | | | | |
| 6. 相手国の 担当機関 | 海運総局 (Directorate General of Sea Communications) | | | | | | |
| 7. 調査の 目的 | 2000年までの長期開発計画の作成 | | | | | | |
| 8. S/W締結年月 | 1981年 2月 | 4. 条件又は開発効果 | | | | | |
| 9. コンサルタント | 日本情報通信コンサルティング (株) 国際電信電話 (株) (社) 日本海難防止協会 | 開発効果として、インドネシア全域の主たる海岸施設とその付帯施設の近代化とそれら施設を利用しての港湾事業の安全運営がなされる。 ①生命及び財産の保護についてのインパクト；SARの海岸局と船舶との間の通信が確保されることにより、海難事故の発生が未然に防止でき、また不幸にして事故が発生した場合は、即時の連絡により救助活動が迅速に行われ、海上における尊い人命の救助と莫大な財産の保護が図られる。 ②運用者、ユーザー及びその他に対するインパクト；海上公衆通信業務による海運総局の収入の増加。PERUMTELの通信網使用料としての収入増加。固定通信のPERUMTELの専用線を使うことによりPERUMTELの通信網の有効利用。港湾内または付近にある船舶と海岸局間の通信が容易になり、港湾内外の船舶通航の整理が行なわれる。港湾業務の能率運用により、海運活動の効果的促進。 | | | | | |
| 10. 調査団 | 団員数 | 16 | | | | | |
| | 調査期間 | 1981.6-1982.3(10ヵ月) | | | | | |
| | 延べ人月 国内 現地 | 16.67 1.17 15.50 | | | | | |
| 11. 付帯調査・ 現地再委託 | なし | | | | | 2. 主な理由 | |
| | | | | | | ①効果の大きさ ②優先度の高さ | |
| 12. 経費実績 総額 コンサルタント経費 | 82,144 (千円) 36,612 | 5. 技術移転 ①研修員受け入れ ②カウンターパートに対するOJT実施。 | | | | 3. 主な情報源 | |
| | | | | | | ① | |

外国語名 Long Term Development Plan of Maritime Communication System

[M/P, M/P+(F/S), 基礎調査, その他]

案件要約表 (M/P)

ASE IDN/A 102/82

作成1990年 3月
改訂1992年 3月

| I. 調査の概要 | | II. 調査結果の概要 | | | III. 調査結果の活用の現状 | |
|--------------------|--|--|--|--|--|--|
| 1. 国名 | インドネシア | 1. サイト 又はエリア | アチエ、南スマトラ、ランポン、西部ジャワ、中部ジャワ、東部ジャワ、南スラウェシ、南カリマンタン | | 1. プロジェクト の現況(区分) | <input checked="" type="checkbox"/> 進行・活用 <input type="checkbox"/> 遅延 <input type="checkbox"/> 中止・消滅 |
| 2. 調査名 | 米穀収穫後処理法改善計画 | 2. プロジェクト /計画予算 (US\$1,000) | 1) 内貨分 | 2) 外貨分 | (状況) 本M/Pと並行した形で、「イ」国政府からの要請にもとづく農業機材供給計画があり、1982年4月OPCFアブレーザルミッションが派遣された。 円借Loan Agreement No. IP-268、1984年3月8日 58億円 詳細設計1985年12月～1987年5月 (海外貨物検査株式会社) 以降、西ジャワ、中部ジャワ、東ジャワ、バリ、西ヌサテンガラ、南スラウェシ、ジョグジャカルタの7州の計626の農業共同組合に、脱穀機83台、平型乾燥機92台、精米ユニット(1t/時)344台、精米ユニット(2t/時)137台の調達が行われ、現在据付が続行中である。 南スラウェシ州の収穫後処理、流通の改善全般については、1988年11月からのJICAによる「収穫後処理及び流通改善調査」へと発展していき、同州内にパイロットプロジェクト地区が設定され、今後具体策が取られる見込である。 また、現在、ペカシ(ジャカルタ南東約40km)で無償によるポストハーベスト訓練センターの建設が行われているが、このプロジェクトも、本M/Pの収穫後処理改善機材の設置案が活用されたものといえる。 アチエ州における着色粒問題は、その後スレッシャーが大量に導入され、作業期間の短縮によって大きく改善された。 | |
| 3. 分野分類 | 農業/農産加工 | 3. 主な提案プロジェクト | | | | |
| 4. 分類番号 | | ① 収穫後処理改善機材の設置 | | | | |
| 5. 調査の種類 | M/P | ② 南スラウェシ州における余剰米の保管・流通能力の増強 | | | | |
| 6. 相手国の 担当機関 | 農業省 | ③ アチエ州とくにピナイ県及び北アチエ県における着色粒の軽減 | | | | |
| 7. 調査の 目的 | | ④ 西部ジャワ州北部平原6県における雨期作初め乾燥と未成熟粒の精選 | | | | |
| 8. S/W締結年月 | 1981年 6月 | 4. 条件又は開発効果 | | | | |
| 9. コンサルタント | 海外貨物検査(株) | [開発効果] 米穀の収穫後処理作業、すなわち刈取、脱穀、乾燥、精選、運搬においてかかるべき変革と新しい機械、器具を改善することにより、収穫後の量的・質的損失を軽減し、政府の食糧増産計画を推進することになる。 | | | | |
| 10. 調査団 | 団員数 12 調査期間 1981.8-1982.11(16ヵ月) 延べ人月 国内 81.56 現地 16.85 64.71 | | | 2. 主な理由 | | |
| 11. 付帯調査・ 現地再委託 | | | | 米穀の収穫後処理の改善は、政府の食糧増大計画を推進するものであり、政府の開発計画の中で高い優先順位が与えられている。 | | |
| 12. 経費実績 | 総額 222,465 (千円) コンサルタント経費 205,444 | 5. 技術移転 | 収穫後処理過程における損失量の測定または推定を、調査団の調査終了後も更に執行する必要がある事、及び改善案の内容を更に現実的効果的なものにするために、調査期間中にカウンターパート、アシスタント及び関係者に対し直接調査方法を伝えるとともに、収穫後処理過程における損失に関する講習会ならびにセミナーを開催することによって技術移転を行った。 | | 3. 主な情報源 | |

外国語名 Postharvest Losses

{M/P, M/P+(F/S), 基礎調査, その他}

案件要約表 (M/P+F/S)

ASE IDN/S 204A/82

作成1986年 3月

改訂1992年 3月

| I. 調査の概要 | | II. 調査結果の概要 | | | | III. 調査結果の活用の現状 | |
|--------------------|--|---|------------------------|-----|-------------|---|--|
| 1. 国名 | インドネシア | 1. サイト 又はエリア | JABOTABEK 地域及び Serpong | | | 1. プロジェクト の現況(区分) | <input checked="" type="checkbox"/> 進行・活用 <input type="checkbox"/> 遅延 <input type="checkbox"/> 中止・消滅 |
| 2. 調査名 | ジャカルタ大都市圏鉄道輸送計画 | 2. プロジェクト / 計画予算 (US\$1,000) | 1) 540,727,272 | 内貨分 | 1) 138,981 | (状況) 1981年 本マスタープランが策定された。 1982年 プロジェクト実施監視機関として、Project Management Group (PMG) 日本でいう鉄道公団のようなものが設置された。 1985年 マスタープランを国際的な経済変動に合わせてマスタープログラムを策定。 このマスタープログラムに基づいて左記の第2段階の事項達成を当面の目標とした。 1983年~1989年 資金調達状況、プロジェクト進捗状況を考慮した実施計画の策定及びその見直し。 1990年 スケジュールの遅れにより達成目標をグレードダウン 1991年 上記グレードダウンされた実施計画で通勤鉄道の前段的な完成を1995年度までに達成すべく実施中。 Note: (1)マスタープラン26項目のうち7項目が完了、7項目が実施中。 (2)マスタープラン作成以来、プロジェクトの資金としては主に OECF 資金が利用されている。その他、フランスの資金も利用されている。 | |
| 3. 分野分類 | 運輸・交通/鉄道 | US\$1,000=Rp625=¥226 | 2) | 外貨分 | 401,745,454 | | |
| 4. 分類番号 | | 3. 主な提案プロジェクト | | | | | |
| 5. 調査の種類 | M/P+(F/S) | 2000年を目標とする長期的なマスタープランであり約160kmの在来線に対する複線化、高架化、自動信号化、車両基地整備などの他チェンカレン空港線などの新線を含んだ26項目に渡るビッグプロジェクト。 | | | | | |
| 6. 相手国の 担当機関 | 運輸省陸運総局 The Directorate General of Landtransport and Inland Waterways | 4. 条件又は開発効果 | | | | | |
| 7. 調査の 目的 | ジャカルタ市及びその近郊の既存の鉄道網の総合的な近代化計画の策定 | 2000年までの各プロジェクトの実施時期を3段階に大別した。 1) 第1段階 既存鉄道の機能を発揮させるため、緊急に必要な最少限度の基盤整備及び早期着手を必要とする輸送力増強のためのプロジェクトとし、1987年度末に完成させる。 2) 第2段階 都市鉄道としてその機能を十分に発揮し、将来の輸送需要の激増に対応するための輸送力増強プロジェクトで、1991年度末に完了させる。 3) 第3段階 鉄道利用客の誘発のための新駅設置及び新たな輸送需要に対応するため、既存の鉄道ネットワークを発展させる新線の建設プロジェクトで、2000年度末に完了させる。 | | | | | |
| 8. S/W締結年月 | 1980年 2月 | 9. コンサルタント | | | | | |
| | | (社) 海外鉄道技術協力協会 | | | | | |
| 10. 調査団 | 団員数 | 18 | | | | | |
| | 調査期間 | 1980.5-1982.3(27ヵ月) | | | | | |
| | 延べ人月 | 105.68 | | | | | |
| | 国内 | 59.16 | | | | | |
| | 現地 | 46.52 | | | | | |
| 11. 付帯調査・ 現地再委託 | なし | 5. 技術移転 | | | | | |
| 12. 経費実績 総額 | 264,645 (千円) | 現調時にカウンターパートと共同調査 | | | | 3. 主な情報源 | |
| コンサルタント経費 | 250,672 | | | | | ① | |

外国語名 Urban/Suburban Railway Transportation in "Jabotabek" Area

{M/P, M/P+(F/S), 基礎調査, その他}

案件要約表 (M/P+F/S)

ASE IDN/S 204B/82

作成1990年 3月
改訂1992年 3月

| I. 調査の概要 | | II. 調査結果の概要 | | | | III. 調査結果の活用の現状 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------|--|--|--|-----|-----------|------------------------------|--|---|---|---|-----------|-------|-----|-----|----|----|----|----|-------|---|----|----|-------|----|----|----|------|----|----|----|--|
| 1. 国名 | インドネシア | 1. サイト 又はエリア | JABOTABEK 地域及び Serpong インドネシア国鉄中央線ジャカルタ駅-マンガラ駅間 | | | 1. プロジェクト の現況(区分) | <input checked="" type="checkbox"/> 実施済・進行中 <input type="checkbox"/> 具体化準備中 <input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 具体化進行中 <input type="checkbox"/> 遅延・中断 <input type="checkbox"/> 中止・消滅 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. 調査名 | ジャカルタ大都市圏鉄道輸送計画 (中央線高架化) | 2. プロジェクト 予算 (US\$1,000) 1USドル=230円=630Rp | 1) 131,304 | 内貨分 | 1) 66,087 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 2) 154,348 | 外貨分 | 2) 65,217 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 3) 163,913 | | 3) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. 分野分類 | 運輸・交通/鉄道 | 3. 主要事業内容 | <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">C</td> </tr> <tr> <td>内容: 土木、建築</td> <td style="text-align: center;">183億円</td> <td style="text-align: center;">202</td> <td style="text-align: center;">206</td> </tr> <tr> <td>電化</td> <td style="text-align: center;">34</td> <td style="text-align: center;">39</td> <td style="text-align: center;">36</td> </tr> <tr> <td>信号・通信</td> <td style="text-align: center;">7</td> <td style="text-align: center;">11</td> <td style="text-align: center;">10</td> </tr> <tr> <td>用地・家屋</td> <td style="text-align: center;">26</td> <td style="text-align: center;">46</td> <td style="text-align: center;">66</td> </tr> <tr> <td>新駅建設</td> <td style="text-align: center;">52</td> <td style="text-align: center;">57</td> <td style="text-align: center;">59</td> </tr> </table> | | | | | A | B | C | 内容: 土木、建築 | 183億円 | 202 | 206 | 電化 | 34 | 39 | 36 | 信号・通信 | 7 | 11 | 10 | 用地・家屋 | 26 | 46 | 66 | 新駅建設 | 52 | 57 | 59 | (状況) F/S修了後、D/Dの費用がOECF借款で供与され、1986年D/Dが実施された。その後逐次工事が着手された。現在、全区間で工事中である。必要な工事費はすべてOECF借款が使われている。 1992年4月に試験開業、8月に部分開業、12月に全面開業すべく工事を進めている。今までのところ、予定どおり完成できる状態である。 |
| | A | B | | | | | C | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 内容: 土木、建築 | 183億円 | 202 | | | | | 206 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 電化 | 34 | 39 | | | | | 36 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 信号・通信 | 7 | 11 | | | | | 10 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 用地・家屋 | 26 | 46 | 66 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 新駅建設 | 52 | 57 | 59 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 分類番号 | | 8. S/W締結年月 | 1980年 2月 | | 計画事業期間 | 1) 1986.0-1992.0 2) 3) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. 調査の種類 | (M/P)+F/S | 9. コンサルタント | (社) 海外鉄道技術協力協会 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. 相手国の 担当機関 | 運輸省陸運総局 The Directorate General of Landtransport and Inland Waterways | 4. フィージビリティ とその前提条件 | EIRR 1) 23.80 FIRR 1) 2) 17.20 2) 3) 15.50 3) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. 調査の 目的 | 中央線連続立体交差化計画の策定 | 条件又は開発効果 | 条件: ・鉄道用地内の家屋の撤去 ・土地利用規制に関する先行措置 ・工事用道路の取得 ・十分な電力供給 ・道路と本プロジェクトとの調整 効果: ・将来の道路交通の緩和 ・踏切における交通混雑の緩和 ・副都心の形成と過度の都心集中の緩和 ・高架下土地利用 ・鉄道の高速度化及びフリークエンシー向上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10. 調査団 | 団員数 14 調査期間 1980.5-1982.3(27ヵ月) 延べ人月 105.68 国内 59.16 現地 46.52 | 11. 付帯調査・ 現地再委託 | なし | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12. 経費実績 総額 コンサルタント経費 | 264,645 (千円) 250,672 | 5. 技術移転 | 現職時にカウンターパートと共同調査 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 12. 経費実績 総額 コンサルタント経費 | 264,645 (千円) 250,672 | | | | 3. 主要情報源 | ① | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

外国語名 Urban/Suburban Railway Transportation in "Jabotabek" Area

[F/S, M/P+(F/S), D/D]

案件要約表 (M/P+F/S)

ASE IDN/S 205A/82

作成1986年 3月
改訂1992年 3月

| I. 調査の概要 | | II. 調査結果の概要 | | | | III. 調査結果の活用の現状 | |
|--------------------|---|---|----------------------------------|------------|------------|--|--|
| 1. 国名 | インドネシア | 1. サイト 又はエリア | スラウェシ、東ヌサテンガラ、東ティムール、マルク、イリアンジャヤ | | | 1. プロジェクト の現況(区分) | <input checked="" type="checkbox"/> 進行・活用 <input type="checkbox"/> 遅延 <input type="checkbox"/> 中止・消滅 |
| 2. 調査名 | 東部地域電気通信網整備計画 (スラウェシ電気通信網整備 計画のM/P) | 2. プロジェクト /計画予算 (US\$1,000) US\$1=Rp660=230円 | 1) 415,297 | 内貨分 | 1) 111,080 | (状況) 本調査で優先順位第1位とされたスラウェシ地域についてF/Sが実施された。 地域の一部をフランスが実施決定。 東ヌサテンガラ地域：F/Sが1985年に実施された。 | |
| 3. 分野分類 | 通信・放送/電気通信 | 2) 304,217 | 外貨分 | 2) 304,217 | | | |
| 4. 分類番号 | | 3. 主な提案プロジェクト | | | | | |
| 5. 調査の種類 | M/P+(F/S) | 東部地域の地上無線伝送路網と島間の海底ケーブル網を整備する。 地上無線伝送路網 6GHz 1440チャンネル方式 1,486Km 6GHz 480チャンネル方式 1,946Km 2GHz 240チャンネル方式 719Km 海底ケーブル 幹線ルート 2,980km 支線ルート 540km 地上伝送路の代案ルート 320km | | | | | |
| 6. 相手国の 担当機関 | 郵電総局及び電気通信公社 Ditjen Postel, Perumtel | 7. 調査の 目的 | | | | | |
| 7. 調査の 目的 | 2005年までの東部地域の地上伝送路網 整備拡充の長期計画の策定 | 8. S/W締結年月 | | | | | |
| 8. S/W締結年月 | 1981年 12月 | 4. 条件又は開発効果 | | | | | |
| 9. コンサルタント | 日本通信協力(株) | 前提条件として、東部地域には現在、国内衛星通信方式が導入されているが、この既設の方式に加えて新しく海底ケーブル網を含む地上伝送路網を導入して、両方式による安定した電気通信サービスを域内全域に構築することを基本とした。 開発効果として、対象となる5つの地域への通信網の整備拡充を計れることがある。 | | | | | |
| 10. 調査団 | 10. 団員数 | 14 | | | | | |
| | 調査期間 | 1982.1-1982.11(10ヵ月) | | | | | |
| | 延べ人月 | 55.83 | | | | | |
| | 国内 | 32.33 | | | | | |
| | 現地 | 23.50 | | | | | |
| 11. 付帯調査・ 現地再委託 | | 11. 付帯調査・ 現地再委託 | | | | | |
| 12. 経費実績 | | 5. 技術移転 | | | | 2. 主な理由 | |
| 総額 | 139,628 (千円) | ①研修員(3名)の受け入れ：日本に招き基本計画書の作成を指導した。 ②カウンターパートに対するOJT。 | | | | ①優先度の高さ ②効果の大きさ | |
| コンサルタント経費 | 110,627 | | | | | 3. 主な情報源 | |
| | | | | | | ① | |

外国語名 Telecommunications Network Development in the Eastern Part

{M/P, M/P+(F/S), 基礎調査, その他}

案件要約表 (M/P+F/S)

ASE IDN/S 205B/82

作成1986年 3月
改訂1992年 3月

| I. 調査の概要 | | II. 調査結果の概要 | | | | III. 調査結果の活用の現状 | |
|--------------------|--|--|---|--------------------|-----------|---|--|
| 1. 国名 | インドネシア | 1. サイト 又はエリア | スラウェシ全域 | | | 1. プロジェクト の現況(区分) | <input checked="" type="checkbox"/> 実施済・進行中 <input type="checkbox"/> 具体化準備中 <input type="checkbox"/> 実施済 <input type="checkbox"/> 実施中 <input checked="" type="checkbox"/> 具体化進行中 <input type="checkbox"/> 遅延・中断 <input type="checkbox"/> 中止・消滅 |
| 2. 調査名 | スラウェシ電気通信網整備計画 (東部地域電気通信網整備計画のF/S) | 2. プロジェクト 予算 (US\$1,000) US\$1=270円 | 1) 128,355 | 内貨分 | 1) 57,577 | | |
| 3. 分野分類 | 通信・放送/電気通信 | 3. 主要事業内容 | 内容 工期を3期間に分けてマイクロ通信網を建設する 規模 2,371 l.u. | | | | (状況) 1984年6月 OECF融資、L/A締結 (E/S、4.42億円) 1988年7月 E/S実施完了 地域の一部をフランスが実施決定。 |
| 4. 分類番号 | | 4. フィージビリティ とその前提条件 | | | | | |
| 5. 調査の種類 | (M/P)+F/S | 8. S/W締結年月 | 1981年 12月 | 3) | 2) 3) | 3) | 2. 主な理由 優先度の高さ：政府内部で本プロジェクトの必要性を認識している。 |
| 6. 相手国の 担当機関 | 郵電総局及び電気通信公社 (Ditjen Postel / Perumtel) | 9. コンサルタント | 日本通信協力 (株) | 条件又は開発効果 | | 現在、本地域における電気通信サービスは一部地域の地上伝送路により、その他の地域は国内衛星通信施設により行なわれている。インドネシア政府は第4次国家開発5ヵ年計画で同地域のサービスの質的量的拡充を図り需要を満たすことを目標に掲げた。この為、衛星との補完関係を保ちながら地上伝送路網を施設してゆくものである。 開発効果として、同地域の加入者自動即時ダイヤルサービスが可能となり、また関連都市との通話が飛躍的に向上するものと思われる。 | |
| 7. 調査の 目的 | スラウェシ地域の地上伝送路網計画の フィージビリティ調査 | 10. 調査団 | 14 | 調査期間 | | 1982.1-1982.11(10ヵ月) | |
| 8. S/W締結年月 | 1981年 12月 | 延べ人月 | 55.83 | 国内 | | 32.33 | |
| 9. コンサルタント | 日本通信協力 (株) | 現地 | 23.50 | 11. 付帯調査・ 現地再委託 | | なし | |
| 10. 調査団 | 14 | 12. 経費実績 | 139,628 (千円) | 5. 技術移転 | | ① 研修員受け入れ：カウンターパート2名を日本へ招へいし、計画内容について指導。 ② カウンターパートに対し、OJTを実施。 | |
| 11. 付帯調査・ 現地再委託 | なし | コンサルタンツ経費 | 110,627 | 3. 主な情報源 | | ① | |

外国語名 Telecommunications Network Development in the Eastern Part

[F/S,M/P+(F/S),D/D]

案件要約表 (F/S)

ASE IDN/S 320/82

作成1986年 3月
改訂1992年 3月

| I. 調査の概要 | | II. 調査結果の概要 | | | | III. 調査結果の活用の現状 | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------|-----------------------|--|--|-----|-----------|---|---|-------|-----|--------|---------------|--------------|---------|-----------|-------|----------|------|----------|
| 1. 国名 | インドネシア | 1. サイト 又はエリア | バリ島 | | | 1. プロジェクトの現況(区分) <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 5px;"> ■ 実施済・進行中 □ 具体化準備中 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 5px;"> ○ 実施済 □ 遅延・中断 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 5px;"> ● 実施中 □ 中止・消滅 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 5px;"> ○ 具体化進行中 </div> | | | | | | | | | | | | |
| 2. 調査名 | バリ国際空港整備拡充計画 | 2. プロジェクト 予算 (US\$1,000) US\$1=220.1円 | 1) 159,000 | 内貨分 | 1) 54,000 | | | 2) 3) | | | | | | | | | | |
| 3. 分野分類 | 運輸・交通/航空・空港 | 3. 主要事業内容 | <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">内容</td> <td style="width: 50%;">規模</td> </tr> <tr> <td>誘導路</td> <td>3,000m</td> </tr> <tr> <td>エプロン</td> <td>16バース</td> </tr> <tr> <td>ターミナルビル</td> <td>42,600平方m</td> </tr> <tr> <td>貨物ビル</td> <td>4,400平方m</td> </tr> <tr> <td>管理庁舎</td> <td>2,500平方m</td> </tr> </table> | | | | 内容 | 規模 | 誘導路 | 3,000m | エプロン | 16バース | ターミナルビル | 42,600平方m | 貨物ビル | 4,400平方m | 管理庁舎 | 2,500平方m |
| 内容 | 規模 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 誘導路 | 3,000m | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| エプロン | 16バース | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ターミナルビル | 42,600平方m | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 貨物ビル | 4,400平方m | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 管理庁舎 | 2,500平方m | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 分類番号 | | 3. 主要事業内容 | (状況) 1983.10 OECF, E/S 融資 L/A 締結 (5.56億円) 1986.9 OECF融資 L/A 締結 (189億円) 1988.7 建設工事入札締結 1989.4 契約調印 1989.9 着工命令 1989.10 建設工事開始 1992年完了、一部施設のメンテナンス期間は1993年まで | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. 調査の種類 | F/S | 6. 相手国の 担当機関 | | | | | 運輸通信省航空総局 Directorate General of Air Communications(DGAC) | | | | | | | | | | | |
| 7. 調査の 目的 | 空港計画 | 8. S/W締結年月 | 1981年 12月 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9. コンサルタント | (株) パシフィックコンサルタンツ | 9. コンサルタント | | | | | 4. フィージビリティ とその前提条件 <table style="width: 100%; margin-top: 5px;"> <tr> <td style="width: 50%;">EIRR 1) 20.80</td> <td style="width: 50%;">FIRR 1) 7.95</td> </tr> <tr> <td>2) 2)</td> <td>2) 2)</td> </tr> <tr> <td>3) 3)</td> <td>3) 3)</td> </tr> </table> | | | | EIRR 1) 20.80 | FIRR 1) 7.95 | 2) 2) | 2) 2) | 3) 3) | 3) 3) | | |
| EIRR 1) 20.80 | FIRR 1) 7.95 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2) 2) | 2) 2) | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3) 3) | 3) 3) | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10. 調査団 | 10. 調査団 | 10. 調査団 | 条件又は開発効果 現在の滑走路長は国際空港として必ずしも十分ではなく東京-バリ間の運航については重量制限を実施している。また滑走路と誘導路の間隔を国際基準に照らし改め、これに伴いターミナル地域の建物の移動等を行う。前提条件として空港、施設等の規模は、航空需要を1990年、2000年及び2010年の3時点で予測しこれに基づいて計画した。 開発効果としてバリ国際空港はインドネシア国における航空交通体系における東の玄関としての役割を果たしているが同空港の整備により東部離島群への国内航空基地としての同国東部の経済開発、国内交流、格差解消、地域開発、経済の均衡、国際貿易、文化の交流等が大いに促進されることが期待される。 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11. 付帯調査・ 現地再委託 | なし | 11. 付帯調査・ 現地再委託 | | | | | 2. 主な理由 ①効果の大きさ：バリ島以東の群島地域の開発のための航空基地国際交流の振興、政治、経済、文化的恩恵の地域的平等のために果たす役割は大いに期待される。特に観光産業による外貨獲得。 ②優先度の高さ：インドネシア国における数少ない国際空港である同空港の施設は能力的に限界に達しており、極めて緊急度は高い。 | | | | | | | | | | | |
| 12. 経費実績 総額 コンサルタント経費 | 57,690 (千円) 52,384 | 12. 経費実績 総額 コンサルタント経費 | 3. 主な情報源 ① | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 5. 技術移転 | | | | | ①OJT：現地滞在中カウンターパート及び関係者に対し報告書の内容及びテーマと定めて討論会を数回催した。 ②研修員受け入れ：JICA個別研修により来日したカウンターパートに対し、検討の方法、過程を詳しく説明し、日本国内での実状についても説明した。 | | | | | | | | | | | |

外国語名 Bali International Airport Development

[F/S, M/P + (F/S), D/D]

案件要約表 (F/S)

ASE IDN/S 319/82

作成1986年 3月
改訂1992年 3月

| I. 調査の概要 | | II. 調査結果の概要 | | | | III. 調査結果の活用の現状 | |
|-----------------------------|--|--|--|---|--|----------------------|--|
| 1. 国名 | インドネシア | 1. サイト 又はエリア | ウジュンバンダン市/スラウェシ州 | | | 1. プロジェクト の現況(区分) | <input checked="" type="checkbox"/> 実施済・進行中 <input type="checkbox"/> 具体化準備中 <input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 具体化進行中 <input type="checkbox"/> 遅延・中断 <input type="checkbox"/> 中止・消滅 |
| 2. 調査名 | ジェネベラン河下流域治水計画/ジェネベラン河治水計画 (Phase II) | 2. プロジェクト 予算 (US\$1,000) US\$1=250円= 625Rp | 1) 18,100 | 内貨分 | 1) 12,300 2) 3) | | |
| 3. 分野分類 | 社会基盤/河川・砂防 | 3. 主要事業内容 | 内容 河川改修 9 km 排水路新設 7.3 km 既設排水路改修 各4.9 km, 2.3 km 規模 9 km 7.3 km 各4.9 km, 2.3 km | | | | |
| 4. 分類番号 | | 内容 | | | | | |
| 5. 調査の種類 | F/S | 6. 相手国の 担当機関 | 公共事業省水資源総局 Ministry of Public Works, Directorate General of Water Resources Development | | | | |
| 7. 調査の 目的 | ・水資源開発の可能性の検討 ・洪水防御及び排水改良の緊急計画の 策定 ・洪水防御及び排水改良の緊急計画に おける予備設計 | 7. 調査の 目的 | ・水資源開発の可能性の検討 ・洪水防御及び排水改良の緊急計画の 策定 ・洪水防御及び排水改良の緊急計画に おける予備設計 | | | | |
| 8. S/W締結年月 | 1979年 2月 | 8. S/W締結年月 | 1)1981.4-1985.10 2) 3) | (状況) 1981.5 OECF融資、L/A 締結 (E/S 1.98億円) 1984.2 詳細設計終了 1985.2 OECF融資、L/A 締結 (緊急治水、53.81億円) 1993.12 工事完了予定 決定済みプロジェクト費用 (1,000 USドル) 総事業費 : 48,140 (換算レートUS\$1=235円) うち内貨分 : 28,570 (換算レートUS\$1=992ルピア) 報告書の内容 対象地 ウジュンバンダン市 事業内容 河川改修 9km 排水路新設 7.3km 既設排水路改修 各 4.9, 2.3km 具体化された内容 同左 河川改修 9.6km 排水路新設 7.83km 既設排水路改修 各 4.92, 2.35km | | | |
| 9. コンサルタント | (株) 建設技術研究所 | 9. コンサルタント | 計画事業期間 | | | | |
| 10. 団員数 | 11 | 10. 団員数 | 4. フィージビリティ とその前提条件 | EIRR 1) 12.30 2) 3) | 2. 主な理由 ①継続的要因、他プロジェクトとの密接な関連性：同ジェネベラン河上流でピリピリ多目的ダム建設計画が同時進行中 ②優先度の高さ：ウジュンバンダン市はスラウェシ州の開発中心都市になっている。 ③効果の大きさ：即効的な効果が期待される。 ④推進体制の強さ：体制も十分に整えられている。 | | |
| 調査期間 | 1979.6-1980.2(22ヵ月) | 調査期間 | 条件又は開発効果 | FIRR 1) 2) 3) | | | |
| 延べ人月 | 84.64 | 延べ人月 | 10年確立流量における下流河道の改修とウジュンバンダン市内の排水改良とのパッケージであり、前提条件として河道改修における経済性並びに家室移転や用地買収等の社会的問題をさけることを最優先する。 開発効果としては、確率10年までは河川からの氾濫はなくなり、又排水改良により確率5年までは無害となる。 | | | | |
| 国内 | 52.50 | 国内 | 5. 技術移転 ①研修員受け入れ：カウンターパート2名に対しF/Sの他D/D、施工等の研修を実施した。 | | | | |
| 現地 | 32.14 | 現地 | | | | | |
| 11. 付帯調査・ 現地再委託 | 測量 | 11. 付帯調査・ 現地再委託 | 3. 主要情報源 ① | | | | |
| 12. 経費実績 総額 コンサルタント経費 | 306,901 (千円) 139,603 | 12. 経費実績 総額 コンサルタント経費 | | | | | |

外国語名 Lower Jeneberang River Flood Control Project/Jeneberang River Flood Control Project(Phase II)

[F/S, M/P + (F/S), D/D]

案件要約表 (F/S)

ASE IDN/A 304/82

作成1990年 3月
改訂1992年 3月

| I. 調査の概要 | | II. 調査結果の概要 | | | | III. 調査結果の活用の現状 | |
|-----------------------------|--|--|--|--|-----------------------------------|--|--|
| 1. 国名 | インドネシア | 1. サイト 又はエリア | 南スマトラ州南東部及びビランボン州北部にまたがる面積50,600haの地域 (人口約114,000人) | | | 1. プロジェクト の現況(区分) | <input checked="" type="checkbox"/> 実施済・進行中 <input type="checkbox"/> 具体化準備中 <input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 具体化進行中 <input type="checkbox"/> 遅延・中断 <input type="checkbox"/> 中止・消滅 |
| 2. 調査名 | コメリン川上流域農業開発計画 | 2. プロジェクト 予算 (US\$1,000) (US\$1=Rp 625) | 1) 321,000 | 内貨分 | 1) 122,000 2) 199,000 3) | | |
| 3. 分野分類 | 農業/農業一般 | 3. 主要事業内容 | 灌漑面積 : 36,700ha ラナウダム : 重力式コンクリートダム、設計流量50立方m/s 幹線/2、3次用水路 : 134/1,117km 幹線/2、3次用水路 : 180/1,264km 幹線直路 : 135km | | | | |
| 4. 分類番号 | | | | | | | |
| 5. 調査の種類 | F/S | | | | | (状況) 詳細設計実施済 資金源 : OECF (L/A (E/S) 1P-260, 1983.9.22 11.8 億円) 実施コンサルタント : 日本工営 実施期間 : 1985.3~1989.9 建設工事中 資金源 : OECF (L/A 1P-347, 1989.12.22) 灌漑洪水防御修復事業 (215.18 億円) の5つのサブ・プロジェクトの一つ 実施コンサルタント : 日本工営 予定事業費 : 約110億円 実施期間 : 1990.10~1995.12 | |
| 6. 相手国の 担当機関 | 公共事業省水資源総局計画部 | 8. S/W締結年月 | 1978年 12月 | 計画事業期間 | 1) 1983.4-1991.9 2) 3) | | |
| 7. 調査の 目的 | コメリン河上流域の水収支調査と農業 開発計画のF/S | 9. コンサルタント | 日本工営(株) (株) 日本農業土木コンサルタンツ | 4. フィージビリティ とその前提条件 | EIRR 1) 16.20 FIRR 1) 2) 3) | | |
| | | 条件又は開発効果 | | [条件] プロジェクトを実施した場合としなかった場合の純収益を基に算定。 | | | |
| 10. 調査団 | 10. 団員数 : 13 | 10. 調査期間 : 1979.9-1982.3(31ヵ月) | | [開発効果] 収量の増加、外資の節約、雇用機会の増加、等 | | | |
| | 延べ人月 : 90.04 国内 : 43.22 現地 : 46.82 | 11. 付帯調査・ 現地再委託 | | 周年灌漑による多様作物体系の導入 国民の生活水準の向上及び収入と福祉の公平化 移民の定住 | | | |
| 12. 経費実績 総額 コンサルタント経費 | 483,029 (千円) 443,096 | 5. 技術移転 | 調査期間を通じ、カウンターパートに対する技術移転 | | | | 2. 主な理由 |
| | | 12. 経費実績 総額 コンサルタント経費 | | | | | 3. 主な情報源 ① |

外国語名 Komering-1 Irrigation Development Project in the Upper Komering River Basin

{F/S, M/P + (F/S), D/D}

案件要約表 (F/S)

ASE IDN/A 305/82

作成1990年 3月
改訂1992年 3月

| I. 調査の概要 | | II. 調査結果の概要 | | | | III. 調査結果の活用の現状 | | | | |
|-----------------------------|-----------------------|--|---|-----|-----------------|---|---|-------------------|---------------|---------|
| 1. 国名 | インドネシア | 1. サイト 又はエリア | アチェ、南スマトラ、ランポン、南カリマンタン、南スラウェシ、東ジャワ、中部ジャワ、西ジャワの計8州 | | | 1. プロジェクト の現況(区分) | <input checked="" type="checkbox"/> 実施済・進行中 <input type="checkbox"/> 具体化準備中 <input checked="" type="checkbox"/> 実施済 <input type="checkbox"/> 遅延・中断 <input type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 中止・消滅 <input checked="" type="checkbox"/> 具体化進行中 | | | |
| 2. 調査名 | 稲病虫害発生予察防除計画 | 2. プロジェクト 予算 (US\$1,000) US\$1=251.85円 | 1) 48,000 | 内貨分 | 1) 29,585 | | | 2) 3) | | |
| 3. 分野分類 | 農業/農業一般 | 3. 主な事業内容 | 食糧作物保護センター 7ヶ所 発生予察実験所 20ヶ所 病虫害観察所 100ヶ所 農業検査分室 3ヶ所 (上記予算は1982年価格ベース) | | | (状況) 基本設計調査 1985年8月～1986年1月 (松田平田坂本設計事務所) 実施設計、工事管理については、松田平田坂本設計事務所が実施している。 1984.3.8 OECF、L/A「農業機械拡充」(58億円)の一部 1983年～ 食糧増産援助 1985.4.26 無償 E/N 4.45億円 1986.2.28 〃 20.61億円 1986.8.20 〃 12.3億円 1987.7.2 〃 19.78億円 1987.4 プロ技協 | | | | |
| 4. 分類番号 | | 4. フィージビリティ とその前提条件 | | | | | | 1) 1982.2-1983.10 | EIRR 1) 22.82 | FIRR 1) |
| 5. 調査の種類 | F/S | 条件又は開発効果 | | | | | | 2) | 2) | 2) |
| 6. 相手国の 担当機関 | 農業省食糧作物総局 | [前提条件] | | | | | | 3) | 3) | 3) |
| 7. 調査の 目的 | | 便益は、事業実施による米の病虫害被害の軽減額とした。評価対象期間は50年、建設期間は5年とした。 | | | | | | | | |
| 8. S/W締結年月 | 1982年 2月 | 計画事業期間 | | | 2. 主な理由 | | | | | |
| 9. コンサルタント | | 4. フィージビリティ とその前提条件 | | | | | | | | |
| 10. 調査団 | 団員数 | 7 | | | | | | | | |
| | 調査期間 | 1982.1-1982.3(3ヵ月) | | | | | | | | |
| | 延べ人月 国内 現地 | 29.98 18.02 9.96 | | | | | | | | |
| 11. 付帯調査・ 現地再委託 | | 5. 技術移転 | ①研修員の受け入れ(2名) ②OJT | | 3. 主な情報源 (1) | | | | | |
| 12. 経費実績 総額 コンサルタント経費 | 78,924 (千円) 68,220 | | | | | | | | | |

外国語名 Rice Pest Forecasting and Control Project

[F/S,M/P+(F/S),D/D]

案件要約表 (F/S)

ASE IDN/A 306/82

作成1990年 3月
改訂1992年 3月

| I. 調査の概要 | | II. 調査結果の概要 | | | | III. 調査結果の活用の現状 | |
|-----------------------------|--|---|--|---------------------|----------|--|--|
| 1. 国名 | インドネシア | 1. サイト 又はエリア | アチエ州 (55,392平方km/12,611千人)、南スマトラ (103,688平方km/4,630千人)、ランボン州 (33,307平方km/4,625千人) (1980年) | | | 1. プロジェクトの現況(区分) | <input checked="" type="checkbox"/> 実施済・進行中 <input type="checkbox"/> 具体化準備中 <input type="checkbox"/> 実施済 <input type="checkbox"/> 実施中 <input checked="" type="checkbox"/> 具体化進行中 <input type="checkbox"/> 遅延・中断 <input type="checkbox"/> 中止・消滅 |
| 2. 調査名 | 稲種子生産・配布計画 | 2. プロジェクト予算 (US\$1,000) (US\$1=Rp 654=233.6円) | 1) 47,702 2) 3) | 内貨分 22,260 | 1) 2) 3) | | |
| 3. 分野分類 | 農業/農業一般 | 3. 主な事業内容 | 種子農場の整備及び新設。 種子処理センターの設置。 中央種子貯蔵庫の設置。 種子の配布・流通組織の確立。 * (上記予算は1982年2月価格ベース) | | | | (状況) ①1984年4月、OECF アプリーザルミッションを「イ」国に派遣、1985年2月15日、L/A No.291 終結。(30億円) ②「イ」国政府の予算等の関係でプロジェクトの発足が遅れたため、1987年8月から11月に再調査(海外貨物検査株式会社) ③1988年6月~7月、OECFの再審査ミッションが派遣され、Minutes of Discussion が作成された。 ④その結果、アチエ、ランボン、南スマトラ、西ジャワ、南スラウェシの5州で種子処理センターの建設が行われる事となった。 ⑤現在詳細設計を実施中(海外貨物検査株式会社) 1992年3月までに完成予定 ⑥1992年3月 L/A |
| 4. 分類番号 | | | | | | | |
| 5. 調査の種類 | F/S | | | | | | |
| 6. 相手国の担当機関 | 農業省食用作物総局生産局 (56) 農業省食用作物総局 (57) | | | | | | |
| 7. 調査の目的 | | | | | | | |
| 8. S/W締結年月 | 1981年 12月 | 計画事業期間 | 1)1983.0-1988.0 2) 3) | | | | |
| 9. コンサルタント | 海外貨物検査(株) 太陽コンサルタンツ(株) | 4. フィージビリティとその前提条件 | EIRR 1) 36.50 2) 3) | FIRR 1) 2) 3) | | | |
| | | 条件又は開発効果 | [開発効果] 食糧自給達成の一翼を担う。 食糧輸入の削減により、外資保有高の減少を抑制。 米価の長期的安定。 農業生産の増大及び農家所得の向上。 | | | | |
| 10. 調査団 | 団員数 11 調査期間 1982.1-1982.12(12ヵ月) 延べ人月 国内 43.70 現地 21.29 22.41 | | | | | 2. 主な理由 食糧自給という同国の長期計画の一環として下記があげられる。 ①単位面積当たりの生産量の増大 ②生産体系の変化による稲品種の適応 ③経済的かつ健全な種子の配布 | |
| 11. 付帯調査・現地再委託 | | | | | | | |
| 12. 経費実績 総額 コンサルタント経費 | 116,698 (千円) 98,636 | 5. 技術移転 | | | | 3. 主な情報源 ① | |

外国語名 Rice Seed Production and Distribution Project

{ F/S, M/P + (F/S), D/D }

案件要約表 (F/S)

作成1990年 3月
改訂1992年 3月

ASE IDN/A 307/82

| I. 調査の概要 | | II. 調査結果の概要 | | | | III. 調査結果の活用の現状 | |
|-----------------------------|--|--|---|--------------------------------|----------------|---|--|
| 1. 国名 | インドネシア | 1. サイト 又はエリア | 南スラウェシ州ピラ地区 (調査面積 20,000ha、人口約83,700人 (1980年)) | | | 1. プロジェクト の現況(区分) | <input checked="" type="checkbox"/> 実施済・進行中 <input type="checkbox"/> 具体化準備中 <input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 具体化進行中 <input type="checkbox"/> 遅延・中断 <input type="checkbox"/> 中止・消滅 |
| 2. 調査名 | ピラかんがい開発計画 | 2. プロジェクト 予算 (US\$1,000) (US\$1=Rp 625) | 1) 108,517 2) 3) | 内貨分 52,682 外貨分 55,835 | 1) 2) 3) | | |
| 3. 分野分類 | 農業/農業土木 | 3. 主な事業内容 | | | | (状況) 詳細設計実施済。 資金源 : OECF (1984.6.13 L/A (E/S) 5.5億円) 実施コンサル : 日本工営株式会社 期間 : 1987.2~1988.12 建設工事中 資金源 : OECF (1990.12.14 L/A) 実施コンサル : 日本工営株式会社 期間 : 1991.7~1996.4 | |
| 4. 分類番号 | | 灌漑面積 : 9,800ha 頭首工 : 1ヶ所 (堤長さ70m、堤高12.7m) ダム : 1ヶ所 (ロックフィルタイプ、堤長230m、堤高30.5m) 幹線水路 : 46.1km 幹線/2次排水路 : 86.5km その他 | | | | | |
| 5. 調査の種類 | F/S | | | | | | |
| 6. 相手国の 担当機関 | 公共事業省水資源総局計画局 | | | | | | |
| 7. 調査の 目的 | 南スラウェシ州中部の農業開発に関するF/S インドネシアへの技術移転 | | | | | | |
| 8. S/W締結年月 | 1981年 2月 | 計画事業期間 | 1) 1983.3-1990.2 2) 3) | | | | |
| 9. コンサルタント | 日本工営 (株) 日本技研 (株) | 4. フィージビリティ とその前提条件 | EIRR ¹⁾ 2) 3) | FIRR ¹⁾ 2) 3) | | | |
| 10. 調査団 | 団員数 13 調査期間 1981.6-1982.6(13ヵ月) 延べ人月 国内 55.02 現地 6.02 49.00 | 条件又は開発効果 [条件] 灌漑開発による作物生産より生ずる直接便益のみを計画の経済便益とした。また、計画の経済耐用年数を工事開始年である1983年から50年とし、目標便益達成に要する期間を作付開始から5年とした。 [開発効果] 作物生産量の増加、農民の生活向上、地域経済発展の格差是正、等 * (上記のEIRRは11.2~13.4) | | | | | |
| 11. 付帯調査・ 現地再委託 | | | | | | 3. 主な情報源 | ① |
| 12. 経費実績 総額 コンサルタント経費 | 143,154 (千円) 130,650 | 5. 技術移転 | 調査期間を通じ、カウンターパートに対する技術移転 | | | | |

外国語名 Bila Irrigation Project

[F/S,M/P+(F/S),D/D]

案件要約表 (F/S)

ASE IDN/A 308/82

作成1990年 3月
改訂1992年 3月

| I. 調査の概要 | | II. 調査結果の概要 | | | | III. 調査結果の活用の現状 | | | |
|---------------------------------|---|--|---|------------|------------------------------|-------------------------------|--|---------|--|
| 1. 国名 | インドネシア | 1. サイト 又はエリア | 南スラウェシ州サンレゴ地区 (調査地区面積17,500ha、人口約38,400人(1981年)) | | | 1. プロジェクト の現況(区分) | <input checked="" type="checkbox"/> 実施済・進行中 <input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 具体化進行中 <input type="checkbox"/> 具体化準備中 <input type="checkbox"/> 遅延・中断 <input type="checkbox"/> 中止・消滅 | | |
| 2. 調査名 | サンレゴかんがい開発計画 | 2. プロジェクト 予算 (US\$1,000) (US\$1=Rp 670) | 1) 54,192 2) 3) | 内貨分 外貨分 | 1) 30,468 2) 3) 23,724 | | | | |
| 3. 分野分類 | 農業/農業一般 | 3. 主な事業内容 | | | | (状況) 1985年頃より世界銀行資金にて建設実施中 | | | |
| 4. 分類番号 | | 灌漑面積 : 8,000ha 頭首工 : 線石積工、堰長40m、堰高10m 小取水堰 : 3ヶ所 灌漑水路 : 幹線11.6km、支線97.5km 導水路 : 4.9km 農道 : 13.2km | | | | | | | |
| 5. 調査の種類 | F/S | | | | | | | | |
| 6. 相手国の 担当機関 | 公共事業省水資源総局計画局 | | | | | | | | |
| 7. 調査の 目的 | サンレゴ地区の灌漑開発計画の技術的・経済的フィージビリティ、カウンターパートへの技術・知識移転 | | | | | | | | |
| 8. S/W締結年月 | 1982年 3月 | 計画事業期間 | 1) 1983.10-1989.3 2) 3) | | | | | | |
| 9. コンサルタント | 日本工営(株) | 4. フィージビリティ とその前提条件 | EIRR 1) 15.10 2) 3) | | FIRR 1) 2) 3) | | | | |
| | 日本技研(株) | | 条件又は開発効果 | | | | | | |
| 10. 調査団 | 団員数 12 調査期間 1982.6-1983.3(10ヵ月) 延べ人月 50.37 国内 1.50 現地 48.87 | [条件] 灌漑便益は、事業を実施した場合としない場合の年間純生産量の差額として算定。目標生産量は、完工後、既存水田地区で5年、新規開田地区で8年後に達成するものとした。 [開発効果] 農産物の生産増大、地区住民の生活水準の向上、等 | | | | | | 2. 主な理由 | |
| 11. 付帯調査・ 現地再委託 | | | | | | | | | |
| 12. 経費実績 総額 コンサルタント経費 | 201,611 (千円) 189,003 | 5. 技術移転 | 調査期間を通じ、カウンターパートに対する技術移転 | | | 3. 主な情報源 ① | | | |
| 外国語名 Sanrego Irrigation Project | | | | | | | | | |

{F/S,M/P+(F/S),D/D}

案件要約表 (M/P)

作成1990年 3月
改訂1992年 3月

ASE IDN/S 111/83

| I. 調査の概要 | | II. 調査結果の概要 | | | | III. 調査結果の活用の現状 | |
|--------------------|---|---|--|-----|--------------|--|--|
| 1. 国名 | インドネシア | 1. サイト 又はエリア | 北ルート ガラ〜ジャバ〜パレバパン間 ジャワ島幹線鉄道 南ルート 排バ〜スラバヤ間 接続ルート 排バ〜マラバヤ間 | | | 1. プロジェクト の現況(区分) | <input type="checkbox"/> 進行・活用 <input checked="" type="checkbox"/> 遅延 <input type="checkbox"/> 中止・消滅 |
| 2. 調査名 | ジャワ島幹線鉄道電化計画 | 2. プロジェクト / 計画予算 (US\$1,000) US\$1=260円 | 1) 2,217,000 | 内貨分 | 1) 554,000 | (状況) 本調査に引き続き1984~1986年度にこのM/Pにて提案された同名のF/Sを実施。 現在JABOTABEK 圏の整備を優先実施中であるが、この整備の進捗にあわせ順次地方幹線の整備を進めることとなるので本プロジェクトの実現にはなお時間を要する見込である。 最近石油消費抑制策等から国鉄内の一部に電化促進の動きはみられるが、上記方針を変えるまでには至っていない。 ・全国的に電力供給が逼迫しており、工業団地やビル開発では、自家発電装置を備えなければならない状態で電化の話題は出ていない。 ・幹線のスピードアップ化が今後の目標としてあがっていることを考え、電化する前に信号等の運行管理設備の改善を図り、遅延の解消、安全の確保等について具体化していく必要がある。 | |
| 3. 分野分類 | 運輸・交通/鉄道 | | 2) 外貨分 | | 2) 1,663,000 | | |
| 4. 分類番号 | | 3. 主な提案プロジェクト | | | | 2. 主な理由 | |
| 5. 調査の種類 | M/P | ジャワ島幹線電化 ① 区間長: 2500km ② 工期: 約25年 ③ 投資: 電化のため地上諸設備費の他、車両費を含む ④ 最優先区間: Jakarta ~ Cirebon(195km) Cikampek ~ Bandung (90km) | | | | | |
| 6. 相手国の 担当機関 | 運輸省陸運総局 The Directorate General of Land Transport and Inland Waterways | 4. 条件又は開発効果 | | | | ① 電力供給側の供給状態悪化。 ② 莫大な資金が必要。 | |
| 7. 調査の 目的 | ジャワ島幹線鉄道電化計画に関わるM/Pの作成 | | | | | | |
| 8. S/W締結年月 | 1982年 4月 | ・全体として feasible(IRR ≥ 20%) ・開発効果 ① 石油資源の節減 (8,410万ガロン/年) ② 道路交通の改善と道路投資の抑制 ③ インドネシア国鉄の輸送近代化と経営改善に貢献 ④ インドネシア国の経済発展に貢献 | | | | 3. 主な情報源 | |
| 9. コンサルタント | (社) 海外鉄道技術協力協会 | | | | | | |
| 10. 調査団 | 団員数 15 調査期間 1982.5-1983.3(10ヵ月) 延べ人月 国内 42.33 現地 26.30 | 5. 技術移転 現地調査時にカウンターパートと共同調査 | | | | ① | |
| 11. 付帯調査・ 現地再委託 | なし | | | | | | |
| 12. 経費実績 | 総額 177,075 (千円) コンサルタント経費 168,810 | | | | | | |

外国語名 Electrification Project of Main Railway Lineds in Java

[M/P, M/P+(F/S), 基礎調査, その他]

案件要約表 (M/P)

ASE IDN/S 113/83

作成1986年 3月

改訂1992年 3月

| I. 調査の概要 | | II. 調査結果の概要 | | | | III. 調査結果の活用の現状 | |
|--------------------|--|---|--------------|-----|------------------|---|--|
| 1. 国名 | インドネシア | 1. サイト 又はエリア | 西ジャワ州北バンテン地区 | | | 1. プロジェクト の現況(区分) | <input checked="" type="checkbox"/> 進行・活用 <input type="checkbox"/> 遅延 <input type="checkbox"/> 中止・消滅 |
| 2. 調査名 | 北バンテン水資源開発基本計画 | 2. プロジェクト /計画予算 (US\$1,000) US\$1=232.2円 | 1) 232,558 | 内貨分 | 1) 165,805 2) | | |
| 3. 分野分類 | 社会基盤/水資源開発 | | 2) | 外貨分 | 66,752 | (状況) 本報告書に基づき、カリアン多目的ダムに関するF/Sが実施された(日本工営、三井共同)。 2. 主な理由 (1) カリアンダムの目的のうち、最大のものは、水田の灌漑であるが、インドネシアでは米が自給に達したため、米産を目的としたプロジェクトは後回しにされている。 (2) 全体規模が大きいインドネシアでは、現在巨大プロジェクトを後回しにしている。 | |
| 4. 分類番号 | | 3. 主な提案プロジェクト | | | | | |
| 5. 調査の種類 | M/P | 西ジャワ州西北端の北バンテン地区の水資源開発計画を策定する。 主要な事業は カリアンダム ロックフィル、ダム高52m、有効貯水容量2.18億立方m チラワンダム コンクリート重力式、ダム高28m、容量5,400万立方m カリアン貯水池からチブルム川への分水トンネル チラワン補助貯水池からチチンタ川への分水トンネル 河川改修 延長26km K-C-C地区ガデック取水堰、導水路、地区内かんがい施設 | | | | | |
| 6. 相手国の 担当機関 | 公共事業省水資源総局計画局 Directorate of Planning & Programming, Directorate General of water Resources | 4. 条件又は開発効果 | | | | | |
| 7. 調査の 目的 | 北バンテン特にKCC地区の住民の収入 増大 | 開発効果として①かんがい受益地区の産米高が年間約12万トン増加する。②域内住民の所得増加を通じて生活水準向上に寄与する。③地域内の所得格差を是正し、社会・経済活動の活性化に効果をもつ。 | | | | | |
| 8. S/W締結年月 | 1982年 2月 | | | | | | |
| 9. コンサルタント | 日本工営(株) 三井共同建設コンサルタント(株) | | | | | | |
| 10. 調査団 | 団員数 | 13 | | | | | |
| | 調査期間 | 1982.7-1983.7(13ヵ月) | | | | | |
| | 延べ人月 | 112.15 | | | | | |
| | 国内 | 53.17 | | | | | |
| | 現地 | 58.98 | | | | | |
| 11. 付帯調査・ 現地再委託 | ボーリング調査、弾性波探査 テストピス、材料試験 | | | | | | |
| 12. 経費実績 | | 5. 技術移転 <small>OT</small> | | | | | |
| 総額 | 324,576 (千円) | | | | | 3. 主な情報源 | ① |
| コンサルタント経費 | 303,148 | | | | | | |

外国語名 North Banten Water Resources Development

{M/P, M/P+(F/S), 基礎調査, その他}

案件要約表 (M/P)

ASE IDN/S 114/83

作成1986年 3月
改訂1992年 3月

| I. 調査の概要 | | II. 調査結果の概要 | | | | III. 調査結果の活用の現状 | |
|-----------------------------|---|---|----------------|-----|------------------|---|--|
| 1. 国名 | インドネシア | 1. サイト 又はエリア | ジャカルタ、メダン、スラバヤ | | | 1. プロジェクト の現況(区分) | <input checked="" type="checkbox"/> 進行・活用 <input type="checkbox"/> 遅延 <input type="checkbox"/> 中止・消滅 |
| 2. 調査名 | 国際通信長期開発計画 | 2. プロジェクト / 計画予算 (US\$1,000) US\$1=Rp675 | 1) 194,000 | 内貨分 | 1) 194,000 2) | | |
| 3. 分野分類 | 通信・放送/通信・放送一般 | 3. 主な提案プロジェクト | | | | (状況) 新国際通信センターの建設にからみ、1987年2月からJICA専門家1名がPT.インドサットに派遣され、国際通信全般の技術指導に当たっている。 PT. インドサットではJICA専門家の指導のもとで種々の開発・改善を行って来ており、現在までの国際通信長期開発に係わる事項は次のとおりである。 (1) デジタル国際電話交換機の導入 1988年3月完成 (2) 国際伝送路のデジタル化 1985年 衛星伝送路のTDMA (Time Division Multiple Access) 方式導入 1984年 地球局-中央局間マイクロのデジタル化 国際電話交換機を光ファイバーで国内中継交換機と接続 1990年4月 衛星伝送路にIBS(Intelsat Business Service)方式の導入 1990年12月 衛星伝送路にIDR(Intermediate Data Rate)方式の導入 (3) 新サービスの導入 1989年3月 IODC (International Operator Direct Call) サービス開始 1989年11月 ITFC (International Toll Free Call) サービス開始 1989年秋 電子メールボックス及び予約システムのサービス開始 1989年 パケット交換網 (SKDP) 建設と利用促進のための諸調査実施 | |
| 4. 分類番号 | | 達成すべき主なプロジェクトは次の3つである。①既存網の拡大、すなわちメダン、ジャカルタ、そして遠い将来にはスラバヤをも含め地域的发展上バランスのとれた新しい関門局の建設。②IDN をめざした通信網のデジタル化。すなわち、海底ケーブルの光ファイバー化、衛星回線のTDMA化、およびデジタル式SPC交換機の導入。 ③新サービスを提供するためのパケット交換データネットワークの構築。 | | | | | |
| 5. 調査の種類 | M/P | 4. 条件又は開発効果 | | | | | |
| 6. 相手国の担当機関 | 郵便電気通信総局 Directorate General of Post and Telecommunication | 西暦2000年に向けてのインドネシアにおける国際通信ネットワークの構成を提示したもので、インドネシア経済の発展に資する。 | | | | | |
| 7. 調査の目的 | 施設拡張計画、要員の運用計画、新技術導入計画を中心とする国際通信マスター・プラン予定 | 5. 技術移転 共同で報告書作成；ドラフト作成時に作成過程を指導及び需要予測の手法を指導 | | | | | |
| 8. S/W締結年月 | 1982年 2月 | 2. 主な理由 | | | | | |
| 9. コンサルタント | 国際電信電話 (株) | 3. 主な情報源 | | | | | |
| 10. 調査団 | 団員数 | ① | | | | | |
| | 調査期間 | 1982.6-1983.6(12ヵ月) | | | | | |
| | 延べ人月 国内 現地 | 38.61 22.21 16.40 | | | | | |
| 11. 付帯調査・現地再委託 | | | | | | | |
| 12. 経費実績 総額 コンサルタント経費 | 89,585 (千円) 79,462 | | | | | | |

外国語名 Long Term Development Programs of the International Telecommunications

[M/P, M/P+(F/S), 基礎調査, その他]

案件要約表 (M/P+F/S)

ASE IDN/S 206A/83

作成1986年 3月

改訂1992年 3月

| I. 調査の概要 | | II. 調査結果の概要 | | | | III. 調査結果の活用の現状 | |
|--------------------|---|---|------------|-----|-----------|--|--|
| 1. 国名 | インドネシア | 1. サイト 又はエリア | スマトラ、リアウ州 | | | 1. プロジェクト の現況(区分) | <input checked="" type="checkbox"/> 進行・活用 <input type="checkbox"/> 遅延 <input type="checkbox"/> 中止・消滅 |
| 2. 調査名 | ドマイ港整備計画 | 2. プロジェクト /計画予算 (US\$1,000) US\$1=250円=Rp680 | 1) 125,000 | 内貨分 | 1) 72,000 | (状況) とくに本報告書は、F/Sの手順、とくに当該港湾の現状分析、需要予測の手法、港湾計画の要点、さらに経済、財務分析の手法などわかりやすく親切に記述しているため、インドネシア港湾局が自ら実施する港の調査の手法として活用されている。 | |
| 3. 分野分類 | 運輸・交通/港湾 | 2) | | 外貨分 | 2) | | |
| 4. 分類番号 | | 3. 主な提案プロジェクト | | | | | |
| 5. 調査の種類 | M/P+(F/S) | ドマイ港を整備するため、2000年目標の長期整備計画と1990年目標の短期開発計画を策定する。長期計画の主な事業は バームオイル専門埠頭 (ドルフィン構造) 2バース、-12m、-10m 最大35,000DWT | | | | | |
| 6. 相手国の 担当機関 | 港湾浸漬局 Directorate of Sea Commu- nication | 外国貿易岸壁 6バース、-10m、15,000DWT 旅客岸壁 1バース、-8.5m、8,000GT 上屋倉庫、貯蔵積出施設用地 | | | | | |
| 7. 調査の 目的 | 2000年目標年次のM/P 1990年目標年次の短期計画 | 短期計画では①ジェッティ・バース 500m、②ドルフィンバース (-12m) 1バース、③新規岸壁 (-10m) 3バース、④上屋2棟、⑤野積場を整備する。 | | | | | |
| 8. S/W締結年月 | 1982年 8月 | 4. 条件又は開発効果 | | | | | |
| 9. コンサルタント | (財) 国際臨海開発研究センター | 本港はベラワン港のもとにおかれた「コレクターポート」として直背地域であるリアウ州の地域開発の拠点港となるばかりでなく、コレクターポートのもとに設けられる「フィーダ・ポート」への中継港としての機能を果たす。 | | | | | |
| 10. 調査団 | 団員数 9 調査期間 1982.10-1983.10(12ヵ月) 延べ人月 国内 49.93 現地 30.00 現地 19.93 | 2. 主な理由 | | | | | |
| 11. 付帯調査・ 現地再委託 | | 3. 主な情報源 | | | | | |
| 12. 経費実績 | 総額 129,134 (千円) コンサルタント経費 120,609 | 5. 技術移転 研修員の受け入れ: 3名に対し、自然条件調査法、F/Sの手法日本の港の実地視察を行った。 | | | | | |
| | | ① | | | | | |

外国語名 Development Project of Dumai Port

{M/P, M/P+(F/S), 基礎調査, その他}

案件要約表 (M/P+F/S)

ASE IDN/S 206B/83

作成1986年 3月

改訂1992年 3月

| I. 調査の概要 | | II. 調査結果の概要 | | | | III. 調査結果の活用の現状 | |
|-----------------------------|--|--|---|--------------|-----------|--|----------|
| 1. 国名 | インドネシア | 1. サイト 又はエリア | リアウ州/スマトラ島 | | | 1. プロジェクトの現況(区分) <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 5px;"> ■ 実施済・進行中 <input type="checkbox"/> 具体化準備中 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 5px;"> ○ 実施済 <input type="checkbox"/> 遅延・中断 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 5px;"> ● 実施中 <input type="checkbox"/> 中止・消滅 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 5px;"> ○ 具体化進行中 <input type="checkbox"/> </div> | |
| 2. 調査名 | ドマイ港整備計画 | 2. プロジェクト 予算 (US\$1,000) US\$1=250円 | 1) 125,000 | 内貨分 | 1) 72,000 | | |
| 3. 分野分類 | 運輸・交通/港湾 | 3. 主な事業内容 | <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>内容</p> <p>埋立工事</p> <p>岸壁新設 (-5.0 ~ -10M)</p> <p>ドルフィン (-10, -12M)</p> <p>港湾道路</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>規模</p> <p>2,800 千立方m</p> <p>1,910 m</p> <p>2 バース</p> <p>一 式</p> </div> </div> | | | | |
| 4. 分類番号 | | | | | | | |
| 5. 調査の種類 | (M/P)+F/S | | | | | | |
| 6. 相手国の 担当機関 | 港湾浚渫局 Directorate of Sea Communi- cation | | | | | | |
| 7. 調査の 目的 | 2000年目標年次のM/P 1990年目標年次の短期計画 | | | | | | |
| 8. S/W締結年月 | 1982年 8月 | 計画事業期間 | 1) 1985.9-1988.12 | 2) | 3) | (状況) 1984年 3月 OECF, E/S ローンL/A締結 (2.3 億円) D/D の過程で、バームオイル輸出量の伸びが予測を下回り、また、並行して整備されているバタム港の整備が別に計画されたため、バームオイル積み出し能力が競合するなどの問題が生じた。 1987年 D/D 終了。上記の問題を考慮し、当初計画の35,000DWTを5,000DWTにしてバームオイル専用埠頭を設計。 1989年12月 OECF融資 (L/A 43.75 億円) により事業実施。 | |
| 9. コンサルタント | (財) 国際臨海開発研究センター | 4. フィージビリティ とその前提条件 | EIRR 1) 15.00 | FIRR 1) 8.90 | 2) 3) | | |
| 10. 調査団 | 団員数 9 | 条件又は開発効果 | 前提条件として将来貨物量は1990年、2000年の時点での予測を用いる。大宗貨物はプランテーション農園から搬出されるバーム、オイルと製材、合板などとし、現在の原油輸出基地の機能は将来も継続する、とする。 開発効果として本港はベラワン港のもとにおかれた「コレクターボット」として直背地域であるリアラ州の地域開発の拠点港となるばかりでなく、コレクターボットのもとに設けられる「フィーダーボット」への中継港としての機能を果たす。 | | | | |
| | 調査期間 1982.10-1983.10(12ヵ月) | | | | | | |
| | 延べ人月 国内 49.93 現地 30.00 19.93 | | | | | | |
| 11. 付帯調査・ 現地再委託 | なし | 5. 技術移転 | ①研修員受け入れ；カウンターパート3名に対し、自然条件調査法、F/Sの手法、日本の港の実地視察を行った。 | | | | |
| 12. 経費実績 総額 コンサルタント経費 | 129,134 (千円) 120,609 | | | | | | |
| | | | | | | | 2. 主な理由 |
| | | | | | | | 3. 主な情報源 |
| | | | | | | | ① |

外国語名 Development Project of Dumai Port

{F/S, M/P + (F/S), D/D}

案件要約表 (M/P+F/S)

ASE IDN/S 207A/83

作成1986年 3月
改訂1992年 3月

| I. 調査の概要 | | II. 調査結果の概要 | | | | III. 調査結果の活用の現状 | |
|-----------------------------|---|---|------------|--------|-----------------|--|--|
| 1. 国名 | インドネシア | 1. サイト 又はエリア | 西スマトラ州パダン市 | | | 1. プロジェクト の現況(区分) | <input checked="" type="checkbox"/> 進行・活用 <input type="checkbox"/> 遅延 <input type="checkbox"/> 中止・消滅 |
| 2. 調査名 | パダン治水計画 | 2. プロジェクト /計画予算 (US\$1,000) US\$1=Rp970 | 1) 77,000 | 内貨分 | 1) 30,000 2) | | |
| 3. 分野分類 | 社会基盤/河川・砂防 | 3. 主な提案プロジェクト | 2) 外貨分 | 47,600 | | (状況) ・全体計画の調査が行われた後、引き続き緊急度の高いプロジェクトについてF/Sが実施された。 ・1986年10月～1989年3月：詳細設計および追加調査の実施 (OECF Loan) ・1991年8月～1995年7月：調達/施工管理業務の実施 | |
| 4. 分類番号 | | パダン市内を流れる3河川の洪水被害防止を目的とする治水計画である。全体計画の主な事業は、 河道改修 総延長55km Laras 遊水池建設 1.5平方km Lubuk Begalurg 分流堰改築 排水路流末樋管構築 橋梁改築 5ヶ所 主要排水路改修 43km 排水機場 6ヶ所 | | | | | |
| 5. 調査の種類 | M/P+(F/S) | 4. 条件又は開発効果 | | | | | |
| 6. 相手国の 担当機関 | 公共事業省水資源総局 Directorate General of Water Resources Development, Ministry of Public Works | 本事業の実施により、約2,640haの土地、21,330戸の家屋が洪水から守られることになり、生活環境が改善されて、大いに民生の安定がはかられる。又、洪水の減少により約840haの未利用地が住宅地として利用できることになり、国策である入植の可能性も大いに高まり、北スマトラ州のメダン市とならぶ一大商業中心地として発展し得る。事業そのものの直接的効果として地域住民の雇用機会の増大が期待できる。又、Laras 遊水池の建設にともなう周辺底地の盛土によって、住宅地を開発することができる。さらに、非常洪水時には、遊水池を有効利用するため、遊水池内を公園化して、周辺住民の憩いの場とすることもできる。 | | | | | |
| 7. 調査の 目的 | 現在及び将来のパダン市街地とその周辺地域を洪水から守るための治水対策・治水排水計画の策定 | 2. 主な理由 | | | | | |
| 8. S/W締結年月 | 1982年 11月 | ・地域の重要性および事業の緊急性による。 | | | | | |
| 9. コンサルタント | 日本建設コンサルタント(株) | 3. 主な情報源 | | | | | |
| 10. 調査団 | 団員数 | ① | | | | | |
| | 調査期間 | ① | | | | | |
| | 延べ人月 国内 現地 | ① | | | | | |
| 11. 付帯調査・ 現地再委託 | 計画地点の平面測量 水害地形分類図作成 | ① | | | | | |
| 12. 経費実績 総額 コンサルタント経費 | 186,946 (千円) 177,377 | ① | | | | | |

外国語名 Padang Area Flood Control Project

[M/P, M/P+(F/S), 基礎調査, その他]

案件要約表 (M/P+F/S)

ASE IDN/S 207B/83

作成 1986 年 3 月
改訂 1992 年 3 月

| I. 調査の概要 | | II. 調査結果の概要 | | | | III. 調査結果の活用の現状 | |
|-----------------------------|--|---|--|--|--------------------|----------------------|--|
| 1. 国名 | インドネシア | 1. サイト 又はエリア | 西スマトラ州パダン市 | | | 1. プロジェクト の現況(区分) | <input checked="" type="checkbox"/> 実施済・進行中 <input type="checkbox"/> 具体化準備中 <input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 具体化進行中 <input type="checkbox"/> 遅延・中断 <input type="checkbox"/> 中止・消滅 |
| 2. 調査名 | パダン治水計画 | 2. プロジェクト 予算 (US\$1,000) US\$1=Rp970=240 円 | 1) 46,654 | 内貨分 | 1) 15,654 2) 3) | | |
| 3. 分野分類 | 社会基盤/河川・砂防 | 3. 主な事業内容 | | (状況) 調査終了後、直ちに国家計画に組み込まれ、ブルーブックにリストアップされた。 1985年2月 OECF融資L/A締結 (E/S、5.8億円) 1986年10月～1989年3月 詳細設計及び追加調査の実施 (日本建設コンサルタント及びトリコンジャヤJV) 1990年12月 OECF融資L/A締結 (80.63億円) 1991年8月～1995年7月 調達、施工管理業務の実施 | | | |
| 4. 分類番号 | | 緊急治水計画では上記のうち以下を実施する。 河道改修 36km Laras 遊水池 分流堰の放水路欄柵架 排水越管構築 52ヶ所 橋梁改築 5ヶ所 排水路改良 3km 排水機場 3ヶ所 | | | | | |
| 5. 調査の種類 | (M/P)+F/S | | | | | | |
| 6. 相手国の 担当機関 | 公共事業省水資源総局 | | | | | | |
| 7. 調査の 目的 | 緊急治水計画 | | | | | | |
| 8. S/W締結年月 | 1982年 11月 | 計画事業期間 | 1) 1984.0-1991.0 2) 3) | | | | |
| 9. コンサルタント | 日本建設コンサルタント(株) | 4. フィージビリティ とその前提条件 | EIRR 1) 14.70 2) 3) FIRR 1) 2) 3) | | | | |
| 10. 調査団 | 団員数 11 調査期間 1983.1-1983.10(8ヵ月) 延べ人月 国内 63.92 現地 13.68 現地 50.24 | 条件又は開発効果 | ①民生の安定 (2.64ha, 21,330戸が洪水から守られる) ②住宅地の増加 (840ha) ③雇用機会の増大 * B/C Ratioは、1.24。 | | | | |
| 11. 付帯調査・ 現地再委託 | | | | | | | |
| 12. 経費実績 総額 コンサルタント経費 | 186,946 (千円) 177,377 | 5. 技術移転 | (1)技術検討会及びOJT。 (2)研修員の受け入れ (3)現地コンサルタントの活用 | 3. 主な情報源 | ① | | |
| 10. 調査団 | | 2. 主な理由 | | | | ・地域の重要性及び事業の緊急性による。 | |

外国語名 Padang Area Flood Control Project

[F/S, M/P+(F/S), D/D]

案件要約表 (F/S)

ASE IDN/S 321/83

作成 1990年 3月
改訂 1992年 3月

| I. 調査の概要 | | II. 調査結果の概要 | | | | III. 調査結果の活用の現状 | | |
|-----------------------------|---|--|---|---------------|-----------|------------------|--|-------|
| 1. 国名 | インドネシア | 1. サイト 又はエリア | ジャカルタ市マンガレイ地区 (7.6 ha)、クボン・ムラティ地区 (3.9 ha) | | | 1. プロジェクトの現況(区分) | <input type="checkbox"/> 実施済・進行中 <input type="checkbox"/> 具体化準備中 <input type="checkbox"/> 実施済 <input type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 具体化進行中 <input type="checkbox"/> 遅延・中断 <input type="checkbox"/> 中止・消滅 | |
| 2. 調査名 | ジャカルタ住宅市街地再開発計画 | 2. プロジェクト予算 (US\$1,000) US\$1=1000Rp | 1) 87,300 | 内貨分 | 1) 45,000 | | | 2) 3) |
| 3. 分野分類 | 社会基盤/都市計画・土地造成 | 3. 主要事業内容 | ジャカルタ市内のマンガレイ、クボン・ムラティの2つの都市部不良住宅街を再開発する。対象地区面積それぞれ45ha、人口は約78,000人と推定される。マンガレイ地区はマンガレイ駅を中心に含むため、鉄道計画に合わせた都市機能更新を図り、工場移転と住宅型再開発を主とする。クボン・ムラティ地区は木造密集住宅地の再開発であり、地区内の池を公園兼調整池として整備し、一部では店舗再開発も行う。 | | | | (状況) 本報告書の提出後、1983/84年と1984/85年にOECDのE/Sローンに申請したが、実現しなかった。再開発は、ジャカルタ市の都市問題解決のための重要な対策の一つであるが、占居者の立ち退き問題もあり、実現に至っていない。 | |
| 4. 分類番号 | | 計画事業期間 | 1) 2) | | | | | |
| 5. 調査の種類 | F/S | 4. フィージビリティとその前提条件 | EIRR 1) 2) 3) | FIRR 1) 2) 3) | | | | |
| 6. 相手国の担当機関 | 公共事業省住宅建築都市開発総局 (Directorate General of Housing, Building, Planning and Urban Development) | 条件又は開発効果 | 開発効果として①都市施設整備(駅前広場、道路など)②都市機能の更新(商業施設など立地条件に合う施設)③住環境(カンボン地区の住環境)④都市開発手法、制度の確立、があげられる。人口・面積で約60%を占めるカンボン(低所得者層の住居地区)の再開発は、都市施設整備・住宅供給・人口対策などの面で緊急な都市問題解決の手段となる。 | | | | | |
| 7. 調査の目的 | 都市スラムの再開発計画の作成 | 調査期間 | 1) 2) 3) | | | | | |
| 8. S/W締結年月 | 1982年 2月 | 10. 調査団 | | | | | | |
| 9. コンサルタント | (株) パシフィックコンサルタンツ (株) 日本設計事務所 | 10. 調査期間 | 1982.7-1983.12(18ヵ月) | | | | | |
| | | 延べ人月 | 73.30 | | | | | |
| | | 国内 | 8.24 | | | | | |
| | | 現地 | 65.06 | | | | | |
| 11. 付帯調査・現地再委託 | 測量 | 11. 付帯調査・現地再委託 | 測量 | | | | | |
| 12. 経費実績 総額 コンサルタント経費 | 204,981 (千円) 189,767 | 12. 経費実績 | 5. 技術移転 研修員受け入れ | | | | | |
| 12. 経費実績 | | 5. 技術移転 研修員受け入れ | | | | 3. 主要情報源 | | |
| | | | | | | ① | | |

外国語名 Urban Renewal Housing Project in Jakarta

[F/S, M/P + (F/S), D/D]

案件要約表 (F/S)

ASE IDN/A 309/83

作成1990年 3月
改訂1992年 3月

| I. 調査の概要 | | II. 調査結果の概要 | | | | III. 調査結果の活用の現状 | | | |
|--------------------|-----------------------------|---|---|---------|-----------|---|---|-----------------|--|
| 1. 国名 | インドネシア | 1. サイト 又はエリア | 北バンテン地域東部コボ・チカンテ・チャレナン地区 (面積約11,500ha、人口43,000人) | | | 1. プロジェクト の現況(区分) | <input type="checkbox"/> 実施済・進行中 <input type="checkbox"/> 具体化準備中 <input type="checkbox"/> 実施済 <input type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 具体化進行中 <input type="checkbox"/> 遅延・中断 <input checked="" type="checkbox"/> 中止・消滅 | | |
| 2. 調査名 | K-C-C 地区灌漑開発計画 | 2. プロジェクト 予算 (US\$1,000) US\$1.0=Rp690 | 1) 35,939 | 内貨分 | 1) 22,659 | | | 2) 3) | |
| 3. 分野分類 | 農業/農業一般 | 3. 主要事業内容 | かんがい面積 : 3,500ha ゲテックダム : プーンタイプブロックフィルダム 導水路 : 9.6km、最大流量6.0立方m/sec 幹線/2,3次用水路 : 13.0/96.0km 幹線道路 : 14.8km | | | (状況) カリアン多目的ダム計画に吸収された。 ・事前調査団は北バンテン水資源開発M/Pのコンタクトミッションとしての役割も兼ねる。社会開発協力部との共同案件。 ・本計画は「北バンテン水資源開発基本計画調査」をM/Pとして、「K-C-C地区かんがい開発計画実施調査」をF/Sとして同時に実施した。 | | | |
| 4. 分類番号 | | 計画事業期間 | 1) 1984.4-1987.7 2) 3) | | | | | | |
| 5. 調査の種類 | F/S | 4. フィージビリティ とその前提条件 | EIRR 1) 17.40 | FIRR 1) | 2) 2) | | | 3) 3) | |
| 6. 相手国の 担当機関 | 公共事業省水資源総局 | 条件又は開発効果 | [条件] 便益は、プロジェクトを実施した場合としなかった場合の生産物による年間純収益の差として評価。 [開発効果] 水稲・水田裏作物生産量の増加、外貨節約、雇用機会の拡大等 | | | | | 2. 主な理由 | |
| 7. 調査の 目的 | | 10. 団員数 | 22 | | | | | | |
| 8. S/W締結年月 | 1982年 月 | 調査期間 | 1982.7-1983.6(12ヵ月) | | | | | 3. 主な情報源 (1) | |
| 9. コンサルタント | 日本工営(株) 三井共同建設コンサルタント(株) | 延べ人月 国内 現地 | 112.15 53.17 58.98 | | | | | | |
| 11. 付帯調査・ 現地再委託 | | 12. 経費実績 総額 コンサルタント経費 | 110,802 (千円) 115,957 | | | | | | |
| | | 5. 技術移転 | | | | | | | |

外国語名 K-C-C Irrigation Development Project

{F/S,M/P+(F/S),D/D}

案件要約表 (M/P+F/S)

ASE IDN/S 209A/84

作成1986年 3月
改訂1992年 3月

| I. 調査の概要 | | II. 調査結果の概要 | | | | III. 調査結果の活用の現状 | |
|-----------------------------|---|--|--------------|-----|------------|--|--|
| 1. 国名 | インドネシア | 1. サイト 又はエリア | ジャカルタ市 | | | 1. プロジェクト の現況(区分) | <input checked="" type="checkbox"/> 進行・活用 <input type="checkbox"/> 遅延 <input type="checkbox"/> 中止・消滅 |
| 2. 調査名 | ジャカルタ市水道整備計画 | 2. プロジェクト /計画予算 (US\$1,000) US\$1=224円= 1,000Rp | 1) 1,851,000 | 内貨分 | 1) 995,000 | (状況) 2005年までの全体計画は2期に分れ、さらに1期を2分し実施する計画とし、その1次計画のF/Sが引続き行われた。報告書の勧告に従い、本第1次計画の実施までに必要な緊急計画は日本政府へ援助要請、またリハビリテーション計画は世銀へ要請された。 緊急計画—OECF融資実施設計 1987年7月完了 リハビリテーション—IBRD融資、仏コンサルタントによって 1987年D/D着手 第1次計画については、次頁参照。 | |
| 3. 分野分類 | 公益事業/上水道 | | 2) 1,000,000 | 外貨分 | 2) 856,000 | | |
| 4. 分類番号 | | 3. 主な提案プロジェクト | | | | | |
| 5. 調査の種類 | M/P+(F/S) | 1. 緊急計画 1.1 リハビリテーション及び改良工事プロジェクト 1) 量水器数設替工事(1985~1990) 2) 無収水量減少のための配水管リハビリテーション工事(1986~1990) 3) 漏水防止計画調査(1986~1990) 1.2 短期改良計画プロジェクト 1) 塩素注入設備改良工事(1986~1989) 2) 排水枝管増設工事(1985~1989) 1.3 緊急計画プロジェクトの実施 1) 新浄水場及び既存給水区域への排水本館の数設(1986~1989) 2. 拡張計画の実施 2.1 ウエストグルムキャナル系統(3,000 l/s) 2.2 ナサダネ川系統(3,000 l/s) 3. 世界銀行融資に関わるプロジェクト 3.1 ウエストグルムキャナル拡張工事プロジェクトの早期実施 3.2 既存浄水場の取水地点移転に伴う導水管数設工事の早期実施 | | | | | |
| 6. 相手国の 担当機関 | 公共事業省都市計画総局 Directorate General of Human Settlement(Cipta Karya), Ministry of Public Works | 4. 条件又は開発効果 | | | | | |
| 7. 調査の 目的 | 2005年目標の水道施設整備計画策定 | JABOTABEK 首都圏開発計画に基づいて、ジャカルタ市開発計画が策定された。しかし水道の将来計画(M/P)は、1972年に作成されたもので当然市の将来開発計画に合致させたマスタープランの見直しが必要になった。紀元2005年を目標にして、将来人口12百万に給水できる計画を樹立、東側水源に依存するばかりでなく、西側水源の開発促進を提言した。 | | | | | |
| 8. S/W締結年月 | 1983年 2月 | | | | | | |
| 9. コンサルタント | (株) 日水コン | | | | | | |
| 10. 調査団 | | | | | | | |
| | 団員数 | 9 | 2. 主な理由 | | | | |
| | 調査期間 | 1983.6-1984.3(18ヵ月) | | | | | |
| | 延べ人月 国内 現地 | 59.00 34.00 25.00 | | | | | |
| 11. 付帯調査・ 現地再委託 | なし | 3. 主な情報源 | | | | | |
| 12. 経費実績 総額 コンサルタント経費 | 314,862 (千円) 159,465 | | | | | | 5. 技術移転 研修員受け入れ：カウンターパート1名を1ヵ月間研修(1984年2月)。 |
| 外国語名 | Jakarta Water Supply Development Project | ① | | | | | |

{M/P, M/P+(F/S), 基礎調査, その他}

案件要約表 (M/P+F/S)

ASE IDN/S 209B/84

作成 1988 年 3 月
改訂 1992 年 3 月

| I. 調査の概要 | | II. 調査結果の概要 | | | | III. 調査結果の活用の現状 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------|---|---|--|-----|----------------------------|----------------------|--|--|--|------|--------------------------------|------------------------|------|--------|------------------------|------|---------------------------------|---------------------------------|------|---------------|--------------------------------------|------|---|---|------|--|
| 1. 国名 | インドネシア | 1. サイト 又はエリア | ジャカルタ市 (給水区域 338 平方km) | | | 1. プロジェクト の現況(区分) | <input checked="" type="checkbox"/> 実施済・進行中 <input type="checkbox"/> 具体化準備中 <input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 具体化進行中 <input type="checkbox"/> 遅延・中断 <input type="checkbox"/> 中止・消滅 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. 調査名 | ジャカルタ市水道整備計画 | 2. プロジェクト 予算 (US\$1,000) US\$1=224円= 1,004Rp | 1) 365,000 | 内貨分 | 1) 178,000 2) 3) 外貨分 | | | 187,000 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. 分野分類 | 公益事業/上水道 | 3. 主要事業内容 | <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">内容</td> <td style="width: 40%;">規模</td> <td style="width: 30%;"></td> </tr> <tr> <td>取水施設</td> <td>東側 (ウエストタルムキアナル) 西側 (チサダネ川)</td> <td>3.2 立方m/s 3.2 立方m/s</td> </tr> <tr> <td>導水施設</td> <td>(西側系統)</td> <td>径 1,500 導水管 16.5 Km</td> </tr> <tr> <td>浄水施設</td> <td>東側 (プアラン浄水場) 西側 (ルバツクプルス浄水場)</td> <td>浄水場規模 3.0 立方m/s 3.0 立方m/s</td> </tr> <tr> <td>送水施設</td> <td>東側 (送水ポンプ送水管)</td> <td>送水ポンプ 6 台 径 1,500-径 1,650×16.3 Km</td> </tr> <tr> <td>配水施設</td> <td>西側 (送水管-自然流下) 東側 配水場 配水管 (本管) 西側 配水場 配水管 (本管)</td> <td>径 1,200×9.1 Km 配水池×2、配水ポンプ 6 台 径 300-径 1,800×115.1 Km 配水池×2、配水ポンプ 5 台 径 300-径 1,800×84.9 Km</td> </tr> </table> | | | | 内容 | 規模 | | 取水施設 | 東側 (ウエストタルムキアナル) 西側 (チサダネ川) | 3.2 立方m/s 3.2 立方m/s | 導水施設 | (西側系統) | 径 1,500 導水管 16.5 Km | 浄水施設 | 東側 (プアラン浄水場) 西側 (ルバツクプルス浄水場) | 浄水場規模 3.0 立方m/s 3.0 立方m/s | 送水施設 | 東側 (送水ポンプ送水管) | 送水ポンプ 6 台 径 1,500-径 1,650×16.3 Km | 配水施設 | 西側 (送水管-自然流下) 東側 配水場 配水管 (本管) 西側 配水場 配水管 (本管) | 径 1,200×9.1 Km 配水池×2、配水ポンプ 6 台 径 300-径 1,800×115.1 Km 配水池×2、配水ポンプ 5 台 径 300-径 1,800×84.9 Km | (状況) | 1985年2月 OECF融資 (緊急事業 45 億円) プアラン浄水場No.1 1985年12月 OECF融資 (109.23 億円) No.2 1987年7月 緊急事業D/D終了 1988年~89年 第1次計画D/D終了 1990年3月 フェーズエプアラン浄水場 NO.IIの建設開始 1990年12月 OECF融資 (64.46 億円) 配水管網 1987年10月 プアラン浄水場 NO.1 の建設開始 1991年12月現在 プアラン浄水場NO.1 及びNO.2建設中。 |
| 内容 | 規模 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 取水施設 | 東側 (ウエストタルムキアナル) 西側 (チサダネ川) | 3.2 立方m/s 3.2 立方m/s | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 導水施設 | (西側系統) | 径 1,500 導水管 16.5 Km | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 浄水施設 | 東側 (プアラン浄水場) 西側 (ルバツクプルス浄水場) | 浄水場規模 3.0 立方m/s 3.0 立方m/s | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 送水施設 | 東側 (送水ポンプ送水管) | 送水ポンプ 6 台 径 1,500-径 1,650×16.3 Km | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 配水施設 | 西側 (送水管-自然流下) 東側 配水場 配水管 (本管) 西側 配水場 配水管 (本管) | 径 1,200×9.1 Km 配水池×2、配水ポンプ 6 台 径 300-径 1,800×115.1 Km 配水池×2、配水ポンプ 5 台 径 300-径 1,800×84.9 Km | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 分類番号 | | 7. 調査の 目的 | M/P の中から、緊急及び1990年目標の 水道施設整備計画策定 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. 調査の種類 | (M/P)+F/S | 6. 相手国の 担当機関 | 公共事業省都市計画総局 Directorate General of Human Settlement (Cipta Karya), Ministry of Public Works | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8. S/W締結年月 | 1983 年 2 月 | 8. S/W締結年月 | 1983 年 2 月 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9. コンサルタント | (株) 日水コン | 4. フीडバック とその前提条件 | EIRR 1) 5.80 2) 3) FIRR 1) 5.80 2) 3) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10. 調査団 | 団員数 9 調査期間 1983.6-1984.3(18) 延べ人月 国内 59.00 現地 34.00 現地 25.00 | 条件又は開発効果 | IRR算出の前提条件として①供用期間を1991年に浄水場完成後30年とした。②1983年度末現在価格で計算③1986年に投資開始④有収率を1991年(61%)から2005年(75%)まで毎年14%上昇させる。⑤有収率向上のためのリハビリテーションコストの投資額を計上。 開発結果としては、①給水人口の増加(2.4百万人~5.4百万人)、②地下水及び水売りへの依存(北部住民)から上水道依存へ転換、③地域全体の水圧上昇、④保健・衛生及び環境水準の上昇、⑤連続的地下水位の低下及び海水の地下水への流入緩和、⑥雇用機会の増加。 ③現地コンサルタントの活用 | | | | 2. 主な理由 | ①継続的要因：第1期計画(OECF融資1975-82)の遅延が水需要への不足を来し、第2期拡張が急務となった。 ②優先度の高さ：首都としての水道施設不備を早急に完備させる必要があるため。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11. 付帯調査・ 現地再委託 | なし | 5. 技術移転 | 研修員受け入れ：カウンターパート1名を1カ月間受け入れ研修。 | | | | 3. 主な情報源 | ① | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12. 経費実績 総額 コンサルタント経費 | 314,862 (千円) 159,465 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

外国語名 Jakarta Water Supply Development Project

[F/S, M/P + (F/S), D/D]

案件要約表 (M/P+F/S)

ASE IDN/S 208A/84

作成1988年 3月
改訂1992年 3月

| I. 調査の概要 | | II. 調査結果の概要 | | | | III. 調査結果の活用の現状 | |
|-----------------------------|---|---|----------------------|-----|-------|---|--|
| 1. 国名 | インドネシア | 1. サイト 又はエリア | ジャカルタをはじめインドネシア全土 | | | 1. プロジェクト の現況(区分) | <input checked="" type="checkbox"/> 進行・活用 <input type="checkbox"/> 遅延 <input type="checkbox"/> 中止・消滅 |
| 2. 調査名 | ラジオ・テレビ放送総合開発 長期計画 | 2. プロジェクト /計画予算 (US\$1,000) | 1) 923,600 | 内貨分 | 1) 2) | (状況) 1. 本調査 (M/P+F/S) に基づいて、「イ」国政府は放送に関する長期計画を策定し、プロジェクトを進行している。その状況は次のとおり。 (1) ラジオ・テレビ放送網拡充計画 (フェーズI) : 円借款 (65.07億円)、1985年L/A、実施済 (2) ラジオ・テレビ放送網拡充計画 (フェーズII) : 円借款 (86.03億円)、1987年L/A、進行中 (3) ラジオ・テレビリハビリテーション計画 : 円借款 (74.78億円)、1990年L/A、進行中 (4) テレビニュース編集・ダビングシステム : 日本無償 (5.02億円)、1989年E/N、実施済 (5) 以上の他、米・英・オーストリア各国からの資金援助により、3件のプロジェクトが終了し、3件が進行中である (91年12月現在) 2. 本調査に引き続き、その後の「イ」国の状況変化に対応するため、1989年、JICAによる「長期計画の見直しおよび第5次5ヵ年計画のFS」が行われた。 | |
| 3. 分野分類 | 通信・放送/通信・放送一般 | US\$1=134.4Rp= 233.6円 | 2) | 外貨分 | | | |
| 4. 分類番号 | | 3. 主な提案プロジェクト | | | | | |
| 5. 調査の種類 | M/P+(F/S) | ① TV Republic Indonesia (国営TV局) ② Radio Republic Indonesia (国営ラジオ局) | | | | | |
| 6. 相手国の 担当機関 | ラジオ・テレビ・フィルム (映画) 総局 (情報省所属) Directorate General of Radio Television and Film (RTF) | 4. 条件又は開発効果 | | | | | |
| 7. 調査の 目的 | 長期計画書の作成と短期計画について のF/S | 開発効果: ①多民族・多言語の国家に共通に使用出来る標準語の普及、②教員の質向上、学校教育の向上、成人・職業教育の向上、③健全娯楽の提供、④広報活動の活性化及び国民の参加意識向上、⑤2000年でラジオ4,600万台、テレビ1,890万台が予想される。 | | | | | |
| 8. S/W締結年月 | 1983年 4月 | 9. コンサルタント | | | | | |
| | (株) NHKアイテック | 10. 調査団 | | | | | |
| | | 団員数 | 33 | | | | |
| | | 調査期間 | 1983.7-1984.12(17ヵ月) | | | | |
| | | 延べ人月 | 68.83 | | | | |
| | | 国内 | 49.43 | | | | |
| | | 現地 | 19.40 | | | | |
| 11. 付帯調査・ 現地再委託 | 地形断面図作成 | 11. 付帯調査・ 現地再委託 | | | | | |
| 12. 経費実績 総額 コンサルタント経費 | 239,222 (千円) 174,933 | 5. 技術移転 ①OJT ②研修員受け入れ | | | | | |
| 12. 経費実績 | | | | | | 3. 主な情報源 | ① |
| | | | | | | 2. 主な理由 | 1. 優先性: 国家開発計画達成における放送の役割に高い優先性を与えているため。 2. 継続性: 放送に関する1970年代の円借プロジェクトに関連して開発整備を継続するため。 |

外国語名 Five-Year Plan for the Integrated Development of Radio and Television Broadcasting

[M/P, M/P+(F/S), 基礎調査, その他]

案件要約表 (M/P+F/S)

ASE IDN/S 208B/84

作成1988年 3月
改訂1992年 3月

| I. 調査の概要 | | II. 調査結果の概要 | | | | III. 調査結果の活用の現状 | |
|--------------------|--|--|---|---------------------------------|------------------------------|--|--|
| 1. 国名 | インドネシア | 1. サイト 又はエリア | 全土を予定 | | | 1. プロジェクト の現況(区分) | <input checked="" type="checkbox"/> 実施済・進行中 <input type="checkbox"/> 具体化準備中 <input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 具体化進行中 <input type="checkbox"/> 遅延・中断 <input type="checkbox"/> 中止・消滅 |
| 2. 調査名 | ラジオ・テレビ放送総合開発 5カ年計画 | 2. プロジェクト 予算 (US\$1,000) US\$1=233.6円 | 1) 229,400 | 内貨分 | 1) 14,900 2) 3) | | |
| 3. 分野分類 | 通信・放送/通信・放送一般 | 3. 主要事業内容 | 内容 ラジオ放送設備 (中波・短波・FM) TV送信設置 ラジオスタジオ設備 テレビスタジオ設備 規模 新設局54局、改修局23局、 予備機設置26セット 新設局50局、更新機10セット 新設スタジオ26室、改修スタジオ99局、 OBVan、スタジオ機器42台、114セット 新設スタジオ9室、改修スタジオ8局、 OBVan、スタジオ機器16台、67セット | | | | |
| 4. 分類番号 | | 4. 調査の種類 | | | | | (M/P)+F/S |
| 6. 相手国の 担当機関 | ラジオ・テレビ・フィルム (映画) 総 局 (情報省所属) Directorate General of Radio, Television and Film (RTP) | 7. 調査の 目的 | 長期計画書の作成と短期計画について のF/S | | | | |
| 8. S/W締結年月 | 1983年 4月 | 8. S/W締結年月 | 1) 1988.0-0.0 | 2) | | (状況) 1. 我が国に対する融資申請承諾済み OECF L/A締結 (1) ラジオ・テレビ放送網拡充計画 (フェーズI) 1985年12月 (65.07億円) (2) 同 (フェーズII) 1987年12月 (86.03億円) 2. 上記プロジェクトの現状 (1) フェーズI 1990年12月 実施済み (2) フェーズII 1992年12月 完了を目指し、現在進行中 (91年12月現在) 3. 調査結果とプロジェクトの関係 対象地 ジャカルタ他全土 事業内容 ラジオ・テレビ放送施設 整備 総事業費 229,400千ドル (84/85~88/89年) 具体化されたプロジェクト内容 同左 左施設整備計画の一部 ・フェーズI 総事業費 31,500千ドル (US\$1=238.54円) うち 内貨 4,200千ドル (US\$1=Rp.1,126) ・フェーズII 総事業費 55,500千ドル (US\$1=155円) (外貨、内貨共にローン対象) | |
| 9. コンサルタント | (株) NHKアイテック | 9. コンサルタント | 4. フィージビリティ とその前提条件 | EIRR 1) 32.60 2) 2) 3) 3) | FIRR 1) 2) 2) 2) 3) 3) | | |
| 10. 調査団 | 10. 調査団 | 10. 調査団 | 条件又は開発効果 前提条件は、①経済成長率は79年~84年の過去7年間の平均は6.0%で、85年以降は5.0~6.0%と推定出来る。②将来人口増加率を1.7%と設定し、2000年で2億人と推定。③1人当りGNPを2000年で950ドルと設定。④ラジオ・テレビ受信機所有台数推定値、 1983年 1989年 2000年 ラジオ 2,500 (万台) 3,280 (万台) 4,620 (万台) テレビ 500 (万台) 840 (万台) 1,890 (万台) 開発結果は、本プロジェクトの実施により①広報活動の活性化により群島国家によりなる島々の住民の意志統一、②学校教育及び一般教育振興で人材の育成③経済活動を高める原動力になる (情報流通向上)。 | | | | |
| 11. 付帯調査・ 現地再委託 | 地形断面図作成 | 11. 付帯調査・ 現地再委託 | | | | | |
| 12. 経費実績 | 12. 経費実績 | 12. 経費実績 | 5. 技術移転 ①OJT: F/S時にカウンターパートを同行し、局調査等実施指導を行った。 ②研修員受け入れ: 3名に対し、監局調査、電測、アーク分析等の技術指導を行った。 ③現地コンサルタントの活用 | | | | |
| 総額 | 239,222 (千円) | 総額 | | | | | |
| コンサルタント経費 | 174,933 | コンサルタント経費 | | | | | |
| 12. 経費実績 | | 12. 経費実績 | | 12. 経費実績 | | 3. 主要情報源 | |

外国語名 Five-Year Plan for the Integrated Development of Radio and Television Broadcasting

[F/S, M/P+(F/S), D/D]

案件要約表 (F/S)

ASE IDN/S 323/84

作成 1990年 3月
改訂 1992年 3月

| I. 調査の概要 | | II. 調査結果の概要 | | | | III. 調査結果の活用の現状 | |
|-----------------------------|---|--|--|--------------------------|--------------------|----------------------|--|
| 1. 国名 | インドネシア | 1. サイト 又はエリア | ジャカルタ市内中心部とチェンカレン空港を結ぶ区間 | | | 1. プロジェクト の現況(区分) | <input type="checkbox"/> 実施済・進行中 <input type="checkbox"/> 具体化準備中 <input type="checkbox"/> 実施済 <input type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 具体化進行中 <input type="checkbox"/> 遅延・中断 <input type="checkbox"/> 中止・消滅 |
| 2. 調査名 | ジャカルタ大都市圏鉄道輸送計画 (チェンカレン空港鉄道新線計画) | 2. プロジェクト 予算 (US\$1,000) US\$1=232.2円 | 1) 205,620 | 内貨分 | 1) 88,393 | | |
| 3. 分野分類 | 運輸・交通/鉄道 | 3. 主要事業内容 | ルート A 案 (19.8Km) 建設費 35,503 百万円 車両費 12,242 万 (下記、計画事業期間は、1)1987~1991 (単線)、2)1987~2006 (複線)) | | | | |
| 4. 分類番号 | | | | | | | |
| 5. 調査の種類 | F/S | | | | | | (状況) 現在、このプロジェクトもその1つとして入っているJABOTABEK 鉄道プロジェクトが推進役のJARTSの指導の下に実施されている。 当プロジェクトの当面の目標は、最小限の通勤鉄道システムを完成することをめざしているため、新線建設を含む本プロジェクトの具体化は少々遅れている。しかしながら、本プロジェクトはJakarta Kota 地区の将来構想と関係しており、今後、それらの計画と整合性をとってゆく必要がある。 |
| 6. 相手国の 担当機関 | 運輸省陸運総局 The Directorate General of Landtransport and Inland Waterways | | | | | | |
| 7. 調査の 目的 | チェンカレン空港とジャカルタ中心部 を結ぶ鉄道新線建設計画 (F/SおよびD/D) | | | | | | |
| 8. S/W締結年月 | 1982年 7月 | 計画事業期間 | 1)1987.0-2006.0 | | 2) | | |
| 9. コンサルタント | (社) 海外鉄道技術協力協会 | 4. フィージビリティ とその前提条件 | | EIRR ¹⁾ 14.30 | FIRR ¹⁾ | | |
| | | 条件又は開発効果 | 条件：・外貨部分は、海外からの借款 (6%, 7年措置後20年均等年賦) ・内貨部分国家予算またはルビー貸借入 (13.5%, 4年措置後6年均等年賦) | | | | |
| 10. 調査団 | 団員数 18 | 効果：・空港利用客は安全、正確な鉄道利用により時間節減等のメリットを享受する。 ・道路交通を緩和することにより、道路利用客の時間節減、道路車両の燃料節減を可能にする。 | | | | | |
| | 調査期間 1982.7-1984.8(24ヵ月) | | | | | | |
| | 延べ人月 国内 80.38 現地 45.63 34.75 | | | | | | |
| 11. 付帯調査・ 現地再委託 | D/D | | | | | | |
| 12. 経費実績 総額 コンサルタント経費 | 802,886 (千円) 803,484 | 5. 技術移転 | 現網時にカウンターパートと共同調査 | | | 3. 主要情報源 | ① |

外国語名 New Railway Line for Cengkareng Airport

[F/S,M/P+(F/S),D/D]

案件要約表 (F/S)

ASE IDN/S 325/84

作成1988年 3月
改訂1992年 3月

| I. 調査の概要 | | II. 調査結果の概要 | | | | III. 調査結果の活用の現状 | | | | | | | | |
|-----------------------------|---|--|---|-----|--------------------|----------------------|---|--|--------------------------|--------------------|--|--|---------------|--|
| 1. 国名 | インドネシア | 1. サイト 又はエリア | 東部ジャワ州ルマジャン県 | | | 1. プロジェクト の現況(区分) | <input checked="" type="checkbox"/> 実施済・進行中 <input type="checkbox"/> 具体化準備中 <input checked="" type="checkbox"/> 実施済 <input type="checkbox"/> 遅延・中断 <input type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 具体化進行中 <input type="checkbox"/> 中止・消滅 | | | | | | | |
| 2. 調査名 | スメル火山砂防・水資源保全計画 | 2. プロジェクト 予算 (US\$1,000) US\$1=240円 | 1) 44,990 | 内貨分 | 1) 2) 3) 24,400 | | | | | | | | | |
| 3. 分野分類 | 社会基盤/河川・砂防 | 3. 主要事業内容 | 内容 チュラーコボアン砂防ダム 規模 高23m, 長438m, 立積120,000立方m 分流路 長1,350m, 幅30m, 土工量566,000立方m レブラックサンドポケット (床固3基) コンクリート14,300立方m, 築堤155,000立方m 長430m 取水路 カリ・レンコンダム2基 コンクリート47,370立方m, 高10m | | | | (状況) 詳細設計終了(八千代エンジニアリング) 1983年10月 OECF融資(L/A 28.08億円) OECF LOANを用いて詳細設計、建設機械の購入建設が行なわれ、 当初予定建設工事が1990.4に完了。 現在追加工事を実施中、1991.7完了予定。 決定済みプロジェクト費用 総事業費(USドル) 21,181 (換算レート) US\$1=230円(円借) 内貨分 8,972 () US\$1=Rp650 1991年8月全ての工事が予定通り完了 | | | | | | | |
| 4. 分類番号 | | 4. フィージビリティ とその前提条件 | | | | | | | EIRR ¹⁾ 8.90 | FIRR ¹⁾ | 2. 主な理由 ①効果の大きさ: 1981年5月に当該区域に土石流災害発生。 ②優先性の高さ: 緊急災害対策として特にプライオリティが高い。 ③推進体制の強さ: 建設省河川局が支援。 | | | |
| 5. 調査の種類 | F/S | 条件又は開発効果 | | | | | | | 2) 3) | 2) 3) | | | | |
| 6. 相手国の 担当機関 | インドネシア公共事業省水資源総局 Directorate General of Water Resources Dev., Ministry of Public Works | 計画事業期間 | | | | | | | 1) 1987.4-1992.3 | 2) | | | | |
| 7. 調査の 目的 | スメル火山南西斜面域の土砂災害防止 事業についてのF/S | 4. 調査団 | | | | | | | ①研修員受け入れ: 6名に対し研修。 | | | | 3. 主な情報源 ① | |
| 8. S/W締結年月 | 1981年 12月 | 10. 調査期間 | | | | | | | 1982.3-1984.12(34ヵ月) | | | | | |
| 9. コンサルタント | 八千代エンジニアリング(株) アジア航測(株) | 10. 調査団 延べ人月 国内 現地 | | | | | | | 173.53 93.87 79.66 | | | | | |
| 11. 付帯調査・ 現地再委託 | 地形図作成 | 11. 付帯調査・ 現地再委託 | 地形図作成 | | | | | | | | | | | |
| 12. 経費実績 総額 コンサルタント経費 | 528,821(千円) 512,040 | 12. 経費実績 総額 コンサルタント経費 | 528,821(千円) 512,040 | | | | | | | | | | | |

外国語名 Volcanic Debris Control and Water Conservation Project in the Southeastern Slope of Mt.Semeru

[F/S, M/P + (F/S), D/D]

案件要約表 (F/S)

ASE IDN/S 322/84

作成1986年 3月
改訂1992年 3月

| I. 調査の概要 | | II. 調査結果の概要 | | | | III. 調査結果の活用の現状 | |
|-----------------------------|------------------------------------|--|-----------|--|--------------------------|----------------------|--|
| 1. 国名 | インドネシア | 1. サイト 又はエリア | ヌサテンガラ地方 | | | 1. プロジェクト の現況(区分) | <input type="checkbox"/> 実施済・進行中 <input type="checkbox"/> 具体化準備中 <input type="checkbox"/> 実施済 <input type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 具体化進行中 <input type="checkbox"/> 遅延・中断 <input type="checkbox"/> 中止・消滅 |
| 2. 調査名 | ヌサテンガラ電気通信網整備計画 | 2. プロジェクト 予算 (US\$1,000) US\$1=235円 | 1) 26,154 | 内貨分 | 1) 3,345 2) 3) 外貨分 | | |
| 3. 分野分類 | 通信・放送/電気通信 | 3. 主な事業内容 | | (状況) F/S終了後、遅延。 本プロジェクトより優先度の高いジャワ〜バリ伝送路プロジェクト等関連プロジェクトが遅れており、1991年1月現在、インドネシア政府からの要請は具体化していない。 特記事項 人口過密地域の伝送路建設に優先度を置いているが地方(辺地)開発もインドネシア開発の目玉であり、将来必ず実施される案件である。 関連プロジェクトの一部着工が本決まりとなったため、本案件の実施優先順位が高くなりつつある。 | | | |
| 4. 分類番号 | | 内容 | | | | | |
| 5. 調査の種類 | F/S | 規模 | | | | | |
| 6. 相手国の 担当機関 | 通信親光省郵電総局 (Ditjen Postal) | (1) 幹線系マイクロウェーブ 伝送路建設 (2) 支線系マイクロウェーブ 伝送路建設 | | | | | |
| 7. 調査の 目的 | ヌサテンガラ地域の地上伝送路網建設 計画のフィージビリティ調査 | (1) 6GHz帯: 960ch-68Mbit/s (2) 2GHz帯: 60ch/120ch-4/8Mbit/s (3) 800MHZ, 120chアナログ方式 (4) 400MHZ, アナログ増設 | | | | | |
| 8. S/W締結年月 | 1983年 4月 | 計画事業期間 | | 1) 1986.0-1995.0 2) 3) | | | |
| 9. コンサルタント | 日本通信協力(株) | 4. フィージビリティ とその前提条件 | | EIRR 1) 17.70 2) 3) FIRR 1) 2) 3) | | | |
| | | 条件又は開発効果 | | | | | |
| | | 前提条件として交換レートは、985Rp ≒ 235円 ≒ 1US\$とし、建設工事はターンキー方式を採用する。 開発効果としては、2010年の回線需要に対応し得る伝送容量を有する伝送路建設計画を策定し、積滞を解消する。 | | | | | |
| 10. 団員数 | 13 | 11. 付帯調査・ 現地再委託 | | 2. 主な理由 | | | |
| 調査期間 | 1983.8-1984.2(6ヵ月) | | | | | | |
| 延べ人月 国内 現地 | 21.90 14.99 | | | | | | |
| 12. 経費実績 総額 コンサルタント経費 | | 91,955 (千円) 83,601 | | 3. 主な情報源 | | | |
| | | 5. 技術移転 | | ① | | | |
| | | カウンターパートに対し、OJTを実施。 | | | | | |

外国語名 Nusa Tenggara Area Terrestrial Transmission Network Project

[F/S, M/P + (F/S), D/D]

案件要約表 (M/P)

ASE IDN/S 115/85

作成1988年 3月
改訂1992年 3月

| I. 調査の概要 | | II. 調査結果の概要 | | | | III. 調査結果の活用の現状 | |
|-----------------------------|--|---|----------------|-----|------------|---|--|
| 1. 国名 | インドネシア | 1. サイト 又はエリア | 海域を含むインドネシア国全域 | | | 1. プロジェクト の現況(区分) | <input checked="" type="checkbox"/> 進行・活用 <input type="checkbox"/> 遅延 <input type="checkbox"/> 中止・消滅 |
| 2. 調査名 | 航行援助施設整備基本計画 | 2. プロジェクト / 計画予算 (US\$1,000) US\$1=230円 | 1) 464,741 | 内貨分 | 1) 106,283 | (状況) ①光波標識では、当時計画実施中のものに加え、短期計画に含まれた、陸上灯台の一部及び灯浮標が英国の財政援助により、計画実施された。 ②電波標識では、当時計画実施中のものに加え、更に35局のレーダービーコン局が米国の財政援助により計画実施された。 | |
| 3. 分野分類 | 運輸・交通/海運・船舶 | | 2) | 外貨分 | 2) 358,458 | | |
| 4. 分類番号 | | 3. 主な提案プロジェクト | | | | ①イ国政府第四次開発5ヵ年計画で海上輸送及びそのインフラストラクチャー整備に重点政策が置かれ、このため、航行援助施設整備が進行した。 ②円借款要請は、現在まで光波、電波標識施設及び業務用船につき行われてきたが、近年の円借款全体枠に占めたプロジェクト費用の極度の限定化、業務用船の同国国内建造の問題などがネックとなり具体化していない。 | |
| 5. 調査の種類 | M/P | 長期計画 () 内は当時計画実施中 短期計画 | | | | | |
| 6. 相手国の 担当機関 | 運輸省海運総局 Directorate General of Sea Communication | a. 光波標識 灯台(陸上) 190 69 (35) 灯台(海上) 11 2 灯標 335 131 (81) 浮体式灯標 18 8 灯浮標 350 249 (222) b. 電波標識 中波ビーコン局 39 17 レーダービーコン局 67 28 (8) | | | | | |
| 7. 調査の 目的 | 2000年を目標年度とした航行援助施設 長期整備計画及び1988/1989を目標とし た短期計画策定 | 4. 条件又は開発効果 | | | | | |
| 8. S/W締結年月 | 1983年 7月 | 開発効果：同国全海域における航行船舶の安全確保、運航能率の向上及び海難防止を図ることを目的とした航行援助施設の整備計画を作成するため実施したプロジェクトで、同国の海運、漁業の発展に寄与する。 | | | | | |
| 9. コンサルタント | (財)日本航路標識協会 | 10. 調査団 団員数 14 調査期間 1984.2-1985.3(14ヵ月) 延べ人月 国内 77.44 現地 62.50 14.94 | | | | 2. 主な理由 | |
| 11. 付帯調査・ 現地再委託 | なし | | | | | 3. 主な情報源 | |
| 12. 経費実績 総額 コンサルタント経費 | 233,087 (千円) 177,574 | | | | | 5. 技術移転 ①研修員受け入れ：JICA研修(航路標識業務)に参加。 | |

外国語名 Master Plan on the Development of Aids to Navigation System

[M/P, M/P+(F/S), 基礎調査, その他]

案件要約表 (M/P)

ASE IDN/S 116/85

作成1988年 3月
改訂1992年 3月

| I. 調査の概要 | | II. 調査結果の概要 | | | | III. 調査結果の活用の現状 | |
|-----------------------------|-----------------------------------|---|----------------------------|-----|----------------|---|--|
| 1. 国名 | インドネシア | 1. サイト 又はエリア | 北スマトラ州アサハン河下流域 (6,000平方km) | | | 1. プロジェクト の現況(区分) | <input checked="" type="checkbox"/> 進行・活用 <input type="checkbox"/> 遅延 <input type="checkbox"/> 中止・消滅 |
| 2. 調査名 | アサハン河下流域開発計画 | 2. プロジェクト /計画予算 (US\$1,000) US\$1=250円 | 1) 33,200 | 内貨分 | 1) 8,450 2) | | |
| 3. 分野分類 | 社会基盤/水資源開発 | 3. 主な提案プロジェクト | 2) 外貨分 | | 24,750 | (状況) 1987年1月 OECF融資L/A締結 (E/S, 6.28 億円) 1988年3月～1990年2月 詳細設計実施済み (特記事項) 本調査は、アサハン河下流域開発計画のフェーズIであり、フェーズII (灌漑開発等)はJICA、農林水産技術課の調査として実施済。 フェーズI実施ローン申請中であり、FY1991年度OECF案件にも上がって いる。 | |
| 4. 分類番号 | | ①アサハン下流域洪水防御のための全体計画 ②①のためにトバ湖運用方式を提案 (上記予算は1985年価格ベース) | | | | | |
| 5. 調査の種類 | M/P | 4. 条件又は開発効果 | | | | | |
| 6. 相手国の 担当機関 | 公共事業省水資源総局 | 開発効果：アサハン下流域の洪水防御 | | | | | |
| 7. 調査の 目的 | アサハン河下流域開発の全体計画の作 成、洪水緊急計画のF/S | 9. コンサルタント 日本工営(株) 八千代エンジニアリング(株) 日本建設コンサルタント(株) | | | | | |
| 8. S/W締結年月 | 1984年 6月 | 10. 調査団 団員数 15 調査期間 1984.10-1985.9(12ヵ月) 延べ人月 国内 61.42 現地 10.03 51.39 | | | | | |
| 9. コンサルタント | | 11. 付帯調査・ 現地再委託 なし | | | | | |
| 10. 調査団 | | 12. 経費実績 総額 287,881 (千円) コンサルタント経費 187,300 | | | | | |
| 11. 付帯調査・ 現地再委託 | | 5. 技術移転 ①現地コンサルタント活用②共同で報告書作成 | | | | | |
| 12. 経費実績 総額 コンサルタント経費 | | 3. 主な情報源 ① | | | | | |

外国語名 Lower Asahan River Basin Development

[M/P, M/P+(F/S), 基礎調査, その他]

案件要約表 (M/P)

ASE IDN/S 117/85

作成1988年 3月
改訂1992年 3月

| I. 調査の概要 | | II. 調査結果の概要 | | | | III. 調査結果の活用の現状 | |
|-----------------------------|--|--|------------------------------|-----|--|--|--|
| 1. 国名 | インドネシア | 1. サイト 又はエリア | インドネシア全土の地方 (Rural) 地域、246 県 | | | 1. プロジェクト の現況(区分) | <input checked="" type="checkbox"/> 進行・活用 <input type="checkbox"/> 遅延 <input type="checkbox"/> 中止・消滅 |
| 2. 調査名 | 地方電気通信網整備計画 | 2. プロジェクト 計画予算 (US\$1,000) | 1) 5,200,000 | 内貨分 | 1) 2) | (状況) 特記事項 都市と比較して地方のインフラストラクチャー整備が遅れているが、今後の国家開発を進めていく上で、地方電気通信網の整備は必要不可欠なものであるため、将来案件として有望である。 本計画を基にして第6次5ヵ月年電気通信網開発計画を JICA にて実施する予定である。 | |
| 3. 分野分類 | 通信・放送/電気通信 | | 2) | 外貨分 | | | |
| 4. 分類番号 | | 3. 主な提案プロジェクト | | | | | |
| 5. 調査の種類 | M/P | 内容 規模 県都、郡都と村に分け 1,127,000 加入の新設 工期を2回として 電気通信網を建設 | | | | | |
| 6. 相手国の 担当機関 | インドネシア国郵電総局 電気通信公社 (POSTEL, PERUMTEL) | | | | | | |
| 7. 調査の 目的 | 2000年を目標年度としたインドネシア 地方電気通信網整備のマスタープラン の策定 | | | | | | |
| 8. S/W締結年月 | 1984年 3月 | 4. 条件又は開発効果 | | | | | |
| 9. コンサルタント | 日本通信協力(株) | ルーラル地域の人々の意識の変革や情報利用体制の整備を行なうことを条件とする。 2000年の全県電話設備総数は、1,364,000 L.U.都市部で3,534,000 L.U.として、REPELITA-V (1989-1993) では、約140県について県都と郡都のネットワーク、REPELITA-VI, VII (1994-2000) では、全246県について村落間のネットワークを整備することによって、イン ドネシア全土のルーラル地域の開発効果をはかる。 | | | | | |
| 10. 調査団 | 団員数 17 調査期間 1984.6-1985.8(14ヵ月) 延べ人月 国内 42.34 現地 30.30 | | | | 2. 主な理由 | | |
| 11. 付帯調査・ 現地再委託 | なし | | | | 現状では、地方よりも都市の電気通信網の整備に重点が置かれているため、他プロジェクトと比較するとプライオリティが高くない。 | | |
| 12. 経費実績 総額 コンサルタント経費 | 191,396 (千円) 175,738 | 5. 技術移転 | | | 3. 主な情報源 | | |
| | | ① 研修員受け入れ：カウンターパート2名に対し電気通信一般、無線システムについて研 修。 ② カウンターパートに対し、OJTを実施。 | | | ① | | |

外国語名 Rural Telecommunications Network

[M/P, M/P+(F/S), 基礎調査, その他]

案件要約表 (M/P+F/S)

ASE IDN/S 210A/85

作成1988年 3月
改訂1992年 3月

| I. 調査の概要 | | II. 調査結果の概要 | | | | III. 調査結果の活用の現状 | | | |
|--------------------|---|---|------------|-------|------------|--|--|-----------------------|--|
| 1. 国名 | インドネシア | 1. サイト 又はエリア | ウジュンパンダン市 | | | 1. プロジェクト の現況(区分) | <input checked="" type="checkbox"/> 進行・活用 <input type="checkbox"/> 遅延 <input type="checkbox"/> 中止・消滅 | | |
| 2. 調査名 | ウジュンパンダン市水道整備計画 | 2. プロジェクト /計画予算 (US\$1,000) US\$1=250.6円= 1,115Rp | 1) 233,000 | 内貨分 | 1) 120,000 | (状況) ウジュンパンダン市水道の現況を明らかにし、これに基づいたリハビリテーション計画を提言、及び将来計画の段階的実施計画、プロジェクトの実施と運営に必要な組織と職員配置計画の提言等に対し大きな評価を得た。 全体計画を2期に分けて実施することを提案し、そのうちの第1期計画のF/SがM/P作成に引続いて実施された。さらにリハビリテーション計画が急務のプロジェクトとして取り上げられ日本に援助要請がなされた。 | | | |
| 3. 分野分類 | 公益事業/上水道 | 2) | | 外貨分 | 2) | | | | |
| 4. 分類番号 | | 3. 主な提案プロジェクト | | | | | | | |
| 5. 調査の種類 | M/P+(F/S) | 第一期計画 ジェネベラン川表流水を水源とする浄水場 500 l/秒2ヶ所建設・送配水管新設・リハビリ | | | | | | | |
| 6. 相手国の 担当機関 | 公共事業省都市計画総局 Directorate General of Human Settlement(Cipta Karya), Ministry of Public Works | 第二期計画 将来完成見込のピリピリダムを水源とする浄水場 1000 l/秒2ヶ所建設・送配水管新設・増設 | | | | | | | |
| 7. 調査の 目的 | 2005年目標のM/P及びこれを2期に分ける事業計画のF/S | 4. 条件又は開発効果 | | | | | | | |
| 8. S/W締結年月 | 1984年 3月 | 開発効果: 1. 給水人口は現在の30万人から第一期終了時点で80万人となり、80%の普及率となる。 2. 地域衛生レベルの向上、水系伝染病の減少、環境改善に大きく貢献する。 3. 市で進めている工業開発、住宅建設プロジェクトに好影響を与え、地域の経済発展に寄与する。 | | | | | | | |
| 9. コンサルタント | (株) 日水コン | 10. 調査団 | | | | 2. 主な理由 | | | |
| 10. 団員数 | 7 | | | | | 1. スラウェシ地域の中心都市としての工業開発・経済発展のためのプライオリティが高い。 | | 2. 衛生・生活環境改善のため必須である。 | |
| 調査期間 | 1984.7-1985.10(15ヵ月) | | | | | | | | |
| 延べ人月 | 137.00 | 国内 | | 47.50 | | | | | |
| | 89.50 | 現地 | | 89.50 | | | | | |
| 11. 付帯調査・ 現地再委託 | なし | 11. 付帯調査・ 現地再委託 | | | | 3. 主な情報源 | | | |
| 12. 経費実績 | | 5. 技術移転 | | | | ① | | | |
| 総額 | 224,197 (千円) | ①研修員受け入れ：カウンターパート2名に対し取水、浄水施設計画、漏水防止に関する研修を実施。 | | | | | | | |
| コンサルタント経費 | 388,627 | | | | | | | | |

外国語名 Ujung Pandang Water Supply Development Project

[M/P, M/P+(F/S), 基礎調査, その他]

案件要約表 (M/P+F/S)

ASE IDN/S 210B/85

作成 1988 年 3 月
改訂 1992 年 3 月

| I. 調査の概要 | | II. 調査結果の概要 | | | | III. 調査結果の活用の現状 | | |
|-----------------------------|---|--|---|-----|--------------------------------|----------------------|--|---|
| 1. 国名 | インドネシア | 1. サイト 又はエリア | ウジュンパンダン市 | | | 1. プロジェクト の現況(区分) | <input checked="" type="checkbox"/> 実施済・進行中 <input type="checkbox"/> 具体化準備中 <input type="checkbox"/> 遅延・中断 <input type="checkbox"/> 中止・消滅 <input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 具体化進行中 | |
| 2. 調査名 | ウジュンパンダン市水道整備計画 | 2. プロジェクト 予算 (US\$1,000) US\$1=250.6円= 1,115Rp | 1) 72,000 | 内貨分 | 1) 35,000 | | | 2) 3) |
| 3. 分野分類 | 公益事業/上水道 | 3. 主な事業内容 | 内容 取水施設 (取水口、沈砂池、導水管) 浄水施設 (新設浄水場、着水井、沈でん池、ろ過池、浄水池) 配水施設 (配水ポンプ、配水本・支管) リハビリテーション工事 規模 1.1 立方m/s、導水管 径1,100×20.5Km 容量 1.0 立方m/s 配水ポンプ 6 台 配水管 径 300—径 1,000×51Km、 径 150—径 250×82Km、 径 50—径 100×255Km、 計 388Km、公共栓 1,600 栓 導水路、浄水場及び配水管 | | | | (状況) 1987.6~1988.5 第1期計画の詳細設計実施 (日水コン) 1987.2 OECF融資、L/A 締結 (E/S 7.01 億円) 1987.7 OECF融資、L/A 締結 (リハビリ、13.64 億円) 1989~ リハビリ工事進行中 1991 同上 | |
| 4. 分類番号 | | 5. 調査の種類 | | | | | | (M/P)+F/S |
| 6. 相手国の 担当機関 | 公共事業省都市計画総局 Directorate General of Human Settlement (Cipta Karya), Ministry of Public Works | 7. 調査の 目的 | M/Pに基づき第一期計画に対するF/S実施 | | | | | |
| 8. S/W締結年月 | 1984 年 3 月 | 8. S/W締結年月 | 1) 1987.10-1992.12 2) 3) | | | | | |
| 9. コンサルタント | (株) 日水コン | 4. フィージビリティ とその前提条件 | EIRR 1) 6.00 2) 12.30 3) | | FIRR 1) 6.00 2) 12.30 3) | | | |
| 10. 調査団 | 団員数 8 調査期間 1984.7-1985.10(15ヵ月) 延べ人月 国内 47.50 現地 89.50 | 条件又は開発効果 | IRR算出の前提条件としては、①1992年浄水場完成後計算期間を30年とした(1次計画)②水道料金は現在の料金を採用 ③有収率を1985年50%から1990年80%に上昇させる(リハビリテーション工事で対処)④1986年に投資開始とした(リハビリテーション) 開発効果としては、①現在給水人口約30万人が約80万人に増加、大半の人口が水道に依存、②工業開発計画、港湾その他プロジェクトの発展促進、③保健、衛生、環境状況の向上、④雇用率の増大。 (上記フィージビリティは、FIRRの1)は1次計画、2)は2次計画) | | | | 2. 主な理由 | ①優先性の高さ：慢性的な水不足を解消し、工場用水を確保し工場誘致を促進させるため。 |
| 11. 付帯調査・ 現地再委託 | なし | 5. 技術移転 | 研修員受け入れ：カウンターパート2名に対し、取水・浄水施設計画及び漏水防止に関する研修を実施。 | | | | 3. 主な情報源 | ① |
| 12. 経費実績 総額 コンサルタント経費 | 224,197 (千円) 387,627 | | | | | | | |

外国語名 Ujung Pandang Water Supply Development Project

[F/S,M/P+(F/S),D/D]

案件要約表 (M/P+F/S)

ASE IDN/S 211A/85

作成1988年 3月
改訂1992年 3月

| I. 調査の概要 | | II. 調査結果の概要 | | | | III. 調査結果の活用の現状 | |
|-----------------------------|--|---|----------------|---|-------|--|--|
| 1. 国名 | インドネシア | 1. サイト 又はエリア | 東部ジャワ州プランタス河流域 | | | 1. プロジェクト の現況(区分) | <input checked="" type="checkbox"/> 進行・活用 <input type="checkbox"/> 遅延 <input type="checkbox"/> 中止・消滅 |
| 2. 調査名 | ウイダス川流域開発計画 | 2. プロジェクト /計画予算 (US\$1,000) US\$1=1,030Rp. | 1) 2,493,929 | 内貨分 | 1) 2) | (状況) M/Pで提案されたプロジェクトのうち、ウォノレジュダムプロジェクトのD/D実施 (1992年6~7月開始予定) | |
| 3. 分野分類 | 社会基盤/水資源開発 | | 2) | 外貨分 | | | |
| 4. 分類番号 | | 3. 主な提案プロジェクト | | | | | |
| 5. 調査の種類 | M/P+(F/S) | ①農業かんがい ②水供給 ③洪水防御 ④ダム・発電 ⑤流域保全 ⑥水管理システムの分野で計16プロジェクトを提案 (上記予算は、1984年価格ベース) | | | | | |
| 6. 相手国の 担当機関 | 公共事業省、水資源総局、河川局 Ministry of Public Works, Directorate General of Water Resources Development, Bureau of River | | | | | | |
| 7. 調査の 目的 | 水供給、水管理システム | | | | | | |
| 8. S/W締結年月 | 1984年 2月 | 4. 条件又は開発効果 | | | | | |
| 9. コンサルタント | 日本工営(株) 日本建設コンサルタント(株) | プランタス河流域は、これまでの日本の援助により、インドネシアで最も開発された流域の1つとなったが、開発に伴い問題が高度化複雑化してきている。発展途上国における流域開発のモデル・ケースとして今後とも援助の継続が望まれる。 | | | | | |
| 10. 調査団 | 団員数 | 16 | | | | | |
| | 調査期間 | 1984.7-1986.3(21ヵ月) | | | | | |
| | 延べ人月 国内 現地 | 123.97 25.58 98.39 | | | | | |
| 11. 付帯調査・ 現地再委託 | なし | | | | | | |
| 12. 経費実績 総額 コンサルタント経費 | 337,764 (千円) 323,985 | 5. 技術移転 | | ①OJT: セミナーを開催した。 ②研修員受け入れ: 3名に対し1ヵ月間JICA研修を行なった。 | | 3. 主な情報源 | ① |
| | | | | | | 2. 主な理由 | |

外国語名: Widas Flood Control and Drainage Project

[M/P, M/P+(F/S), 基礎調査, その他]

案件要約表 (M/P+F/S)

ASE IDN/S 211B/85

作成 1988年 0月
改訂 1992年 3月

| I. 調査の概要 | | II. 調査結果の概要 | | | | III. 調査結果の活用の現状 | | |
|-----------------------------|--|---|--|-----|------------------------------|----------------------|---|-----|
| 1. 国名 | インドネシア | 1. サイト 又はエリア | 東部ジャワ州ガンジュク県 | | | 1. プロジェクト の現況(区分) | <input type="checkbox"/> 実施済・進行中 <input type="checkbox"/> 具体化準備中 <input checked="" type="checkbox"/> 実施済 <input type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 具体化進行中 <input type="checkbox"/> 遅延・中断 <input type="checkbox"/> 中止・消滅 | |
| 2. 調査名 | ウイダス川流域開発計画 | 2. プロジェクト 予算 (US\$1,000) US\$1=1,100Rp | 1) 22,700 2) 56,900 3) | 内貨分 | 1) 10,100 2) 29,900 3) | | | 外貨分 |
| 3. 分野分類 | 社会基盤/水資源開発 | 3. 主要事業内容 | 内容 かんがい面積 かんがい用ダム/貯水池 規模 トランスベーストンネル 2,599ha / 2ヶ所 頭首工 1本 主水路/第2.3次水路 8.4km/98km 流域面積/計画規模 1,538平方km/25年 改修区間長(支線を含む) 81.8km 主要施設 人工遊水地 3ヶ所(総貯水容量23.5MCM) 分水路 1ヶ所(2.9km) | | | | (状況) F/S終了後遅延。 特記事項 中流域改修、スラバヤ川改修が先行しており、財政的余裕が生まれれば本格的に当プロジェクト実施の可能性あり。 クドゥンソコ川の一部、ウイダス川下流の河川改修工事は、ワルトリ灌漑修復プロジェクト(ADB融資)資金によりプランタス事務所が実施済みである(1991年)。同区間の設計はF/Sの提案に沿っている。 | |
| 4. 分類番号 | | 河川計画 | | | | | | |
| 5. 調査の種類 | (M/P)+F/S | 7. 調査の 目的 | 上記予算の1)はかんがい、2)は河川(1984年価格) | | | | 2. 主要理由 ①相手国内の事情：資金難の為新規プロジェクトの着手が遅れている。 | |
| 6. 相手国の 担当機関 | 公共事業省、水資源総局、河川局 Ministry of Public Works Directorate General of Water Resources Development Bureau of River | 8. S/W締結年月 | 1984年 2月 | | 計画事業期間 | | | |
| 9. コンサルタント | 日本工営(株) 日本建設コンサルタント(株) | 4. フィージビリティ とその前提条件 | EIRR 1) 10.60 FIRR 1) 2) 12.00 2) 3) 3) | | 条件又は開発効果 | | 前提条件として、かんがい開発の便益は、WithとWithoutの収量の差を基に算定。河川改修計画での洪水防御便益は、洪水多発地における資産評価及び氾濫解析を基に算定した。年平均洪水被害軽減額を便益とした。経済費用は、移転支出項目(税金、補助金)及び労働費用の経済価値を考慮して算出。 開発効果：かんがい計画は、作物収量の増加、農民の生活向上、河川改修計画は、洪水被害の軽減、社会生活の安定、土地利用の高度化に伴う経済活動の活性化が期待される。 | |
| 10. 調査団 | 団員数 16 調査期間 1984.7-1986.3(21ヵ月) 延べ人月 123.97 国内 25.58 現地 98.39 | 11. 付帯調査・ 現地再委託 | なし | | | | | |
| 12. 経費実績 総額 コンサルタント経費 | 337,764(千円) 323,985 | 5. 技術移転 | ◎OJT:分野別にセミナーを実施 | | | | ① | |

外国語名 Widas Flood Control and Drainage Project

{F/S,M/P+(F/S),D/D}

案件要約表 (F/S)

ASE IDN/S 329/85

作成 1988 年 3 月
改訂 1992 年 3 月

| I. 調査の概要 | | II. 調査結果の概要 | | | | III. 調査結果の活用の現状 | |
|-----------------------------|--|--|---|---------------------|--------------------|--|--|
| 1. 国名 | インドネシア | 1. サイト 又はエリア | スマトラ、カリマンタン、スラウェシ及びメサテンガラの10州38県の県道 | | | 1. プロジェクト の現況(区分) | <input checked="" type="checkbox"/> 実施済・進行中 <input type="checkbox"/> 具体化準備中 <input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 具体化進行中 <input type="checkbox"/> 遅延・中断 <input type="checkbox"/> 中止・消滅 |
| 2. 調査名 | 地方道路整備計画 | 2. プロジェクト 予算 (US\$1,000) US\$1=1,110ルピア | 1) 140,000 | 内貨分 | 1) 2) 3) 80,000 | | |
| 3. 分野分類 | 運輸・交通/道路 | 3. 主な事業内容 | 内容 現道路改良 6,977Km 現道路維持管理 8,683Km 規模 | | | (状況) 本調査終了後、道路総局、地方道路課で本報告書を道路整備の基礎資料として活用、本報告書の勧告に従い、政府は第4次計画でも地方道路整備を行なうべくOECEPローン(L/A 1987.12、128.82億円)を受けた。 この1988年～1990年の整備計画(Phase I)は91年8月に完了した。 Phase IIとしてOECEPローン(L/A 1990.12 90億円)を受け91年9月に開始し、92年12月に完了の予定。 Phase IIIとして、1992/93ローンを公共事業省は、申請する予定。 Phase IIIは3年度分でADB,IBRDローンとの調整でOECEPが実施する州・県が多少変更する可能性がある。 | |
| 4. 分類番号 | | | | | | | |
| 5. 調査の種類 | F/S | | | | | | |
| 6. 相手国の 担当機関 | 公共事業省道路総局 Ministry of Public Works, Directorate General of Highways | | | | | | |
| 7. 調査の 目的 | 道路計画 | | | | | | |
| 8. S/W締結年月 | 1984年 6月 | 計画事業期間 | 1) 1988.0-1992.0 | 2) | | 2. 主な理由 ①効果の大きさ：地方の産業振興と均衡ある開発を図り、非石油輸出の開発につながる。②他のプロジェクトとの関連性：OECEP以外にADB、IBRDの資金も導入。③優先性の高さ：5年計画の重要施策の1つ。④推進体制の強さ：公共事業省道路総局が中心に推進。 | |
| 9. コンサルタント | (株) パシフィックコンサルタンツ (株) 協和コンサルタンツ | 4. フィージビリティ とその前提条件 | EIRR 1) 2) 3) | FIRR 1) 2) 3) | | | |
| 10. 調査団 | 団員数 8 調査期間 1984.10-1986.3(18ヵ月) 延べ人月 国内 75.34 現地 5.51 69.83 | 条件又は開発効果 | 前提条件として、フィージブルな道路リンクの選定は、原則としてIRR 10%以上とし、整備優先順位はN.P.V.の大きさで決定。プロジェクト実施計画は、1988年から1993年までの5年、経済評価は、1988年から1998年まで10年間のキャッシュ・フローでIRR、B/C及びN.P.V.を推計。 開発効果として、道路整備は第4次5年計画の重要施策であり、本プロジェクトの周辺地域の生産、出荷活動を活発させ、また地方の道路舗装率を現在の12%から26%まで引き上げることが期待される。 (上記フィージビリティは、EIRR1)10%以上) | | | | |
| 11. 付帯調査・ 現地再委託 | なし | 5. 技術移転 | ①機材供与及び指導：マイクロコンピューター2台、操作及びデータ整理を指導。 | | | 3. 主な情報源 ① | |
| 12. 経費実績 総額 コンサルタント経費 | 230,874 (千円) 258,430 | | | | | | |

外国語名 Local Road Development

[F/S,M/P+(F/S),D/D]

案件要約表 (F/S)

ASE IDN/S 327/85

作成 1988年 3月
改訂 1992年 3月

| I. 調査の概要 | | II. 調査結果の概要 | | | | III. 調査結果の活用の現状 | |
|-----------------------------|---|---|---|---------|----------------|---|--|
| 1. 国名 | インドネシア | 1. サイト 又はエリア | ジャカルタ大都市圏 JABOTABEK 地域 (カンボンバンダン駅地区及びその周辺) | | | 1. プロジェクト の現況(区分) | <input checked="" type="checkbox"/> 実施済・進行中 <input type="checkbox"/> 具体化準備中 <input type="checkbox"/> 遅延・中断 <input type="checkbox"/> 中止・消滅 <input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 具体化進行中 |
| 2. 調査名 | ジャカルタ大都市圏鉄道輸送計画 (カンボンバンダン駅地区改良計画) | 2. プロジェクト 予算 (US\$1,000) US\$1=1,088Rp. | 1) 6,600 | 内貨分 | 1) 1,900 2) 3) | | |
| 3. 分野分類 | 運輸・交通/鉄道 | 3. 主要事業内容 | 内容 東線・西線の短絡線新設 約400m 駅新設 約650平方m | | | (状況) F/S 終了後、OECD 資金にて1988年D/Dが実施され、その後、工事費もOECD 資金で用意され1991年1月工事に着手、現在工事中である。 本プロジェクトは通勤運転ルートの1つを形成するループ運転に必要な不可欠な工事であり、その重要性を関係機関は認識しながら工事を進めている。 | |
| 4. 分類番号 | | | | | | | |
| 5. 調査の種類 | F/S | | | | | | |
| 6. 相手国の 担当機関 | 運輸省陸運総局 Directorate General of Land Transport and Inland Water Ways | | | | | | |
| 7. 調査の 目的 | カンボンバンダン駅地区改良 | | | | | | |
| 8. S/W締結年月 | 1982年 7月 | 計画事業期間 | 1) 1986.0-1989.0 | 2) | | 2. 主要理由 ①効果の大きさ、②推進体制の強さ：JABOTABEK Project の推進のためインドネシア政府がPMG (公団のような機関) を設置しJARTS がサポートしている。 ③S/S コンサルタントも実施当局をサポートしている。 | |
| 9. コンサルタント | (社) 海外鉄道技術協力協会 | 4. フィージビリティ とその前提条件 | EIRR 1) 17.80 | FIRR 1) | | | |
| 10. 調査団 | | 条件又は開発効果 | 2) 3) | 2) 3) | | | |
| 10. 団員数 | 11 | 前提条件は将来交通量を1990年、95年、2005年の3時点で予測、建設は、1988年、89年の2年間を予定し営業開始は1990年とした。 開発効果としては、東線・西線を連絡し、両線をループ運転することにより、効率的な運転システムが出来る。JABOTABEK 地域の東部・西部の開発を促進し、同地域のバランスのとれた発展に貢献する。 | | | | | |
| 調査期間 | 1984.10-1986.1(15ヵ月) | | | | | | |
| 延べ人月 | 44.19 | | | | | | |
| 国内 | 16.60 | 5. 技術移転 <input type="checkbox"/> OJT: 現調時に専門分野別にレクチャー。 <input type="checkbox"/> 研修員受け入れ: 2回、延4名に対し研修。 | | | | | |
| 現地 | 27.59 | | | | | | |
| 11. 付帯調査・ 現地再委託 | なし | 3. 主要情報源 ① | | | | | |
| 12. 経費実績 総額 コンサルタント経費 | 125,819 (千円) 124,527 | | | | | | |

外国語名 Railway Improvement in Kampung Bandan Station Area

{F/S, M/P+(F/S), D/D}

案件要約表 (F/S)

ASE IDN/S 328/85

作成 1988 年 3 月
改訂 1992 年 3 月

| I. 調査の概要 | | II. 調査結果の概要 | | | | III. 調査結果の活用の現状 | | | |
|-----------------------------|--|--|---|---------------------------|--------------------|---|--|---|--|
| 1. 国名 | インドネシア | 1. サイト 又はエリア | ジャワ島西部ジャカルタ～チレボン間及びジャカルタ～バンドン間 | | | 1. プロジェクト の現況(区分) | <input type="checkbox"/> 実施済・進行中 <input type="checkbox"/> 具体化準備中 <input type="checkbox"/> 実施済 <input type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 具体化進行中 <input type="checkbox"/> 遅延・中断 <input type="checkbox"/> 中止・消滅 | | |
| 2. 調査名 | ジャワ島幹線鉄道電化計画 | 2. プロジェクト 予算 (US\$1,000) US\$1=259円 | 1) 189,500 | 内貨分 | 1) 44,500 2) 3) | | | | |
| 3. 分野分類 | 運輸・交通/鉄道 | 3. 主要事業内容 | | | | (状況) F/S終了後、遅延。 現在JABOTABEK 圏の整備を優先実施中であるが、この整備の進捗にあわせ順次地方幹線の整備を進めることとなるので本プロジェクトの実現にはなお時間を要する見込である。 最近、石油消費抑制策から国鉄内の一部に電化促進の動きはみられるが、上記方針を変えるまでには至っていない。 ・全国的に電力供給が切迫しており、工業団地やビル開発では自家発電装置を備えなければならない状態で、電化の話題は出ていない。 ・幹線のスピードアップ化が、今後の目標としてあがっていることを考え、電化する前に信号等の運行管理設備の改善を図り遅延の解消、安全の確保等について、具体化していく必要がある。 | | | |
| 4. 分類番号 | | 内容 | 規模 | | | | | | |
| 5. 調査の種類 | F/S | 鉄道電化① Bekasi～Cirebon ② Cikampek～Bandung | 198Km 90Km | | | | | | |
| 6. 相手国の 担当機関 | 運輸省陸運総局 The Directorate General of Land Transport and Inland Waterways | 電気機関車、客車、貨車 変電所新設 信号 | 58両、107両、478両 3ヶ所 自動信号化 トークンレス化 | | | | | | |
| 7. 調査の 目的 | ジャカルタ・チレボン及びチカンベック・バンドン間の交流電化計画 | ① Bekasi～Cirebon: ② Cikampek～Bandung: | | | | | | | |
| 8. S/W締結年月 | 1984年 7月 | 計画事業期間 | 1) 1988.4-1997.3 2) 3) | | | | | | |
| 9. コンサルタント | (社) 海外鉄道技術協力協会 | 4. フィージビリティ とその前提条件 | EIRR 1) 21.00 2) 3) | FIRR 1) 18.50 2) 3) | | | | | |
| 10. 調査団 | 団員数 15 調査期間 1984.12-1986.2(13ヵ月) 延べ人月 国内 53.88 現地 31.61 22.27 | 条件又は開発効果 | 前提条件は、将来交通両は、1992年、1997年、2000年、2007年の4時点で予測、鉄道電化によるスピードアップを考慮し、競争関係にある道路は高速道路整備によるスピードアップを考慮したが船舶は現状通りとした。運賃は上記3者とも現状と同一水準とした。 開発効果としては、JAKARTA～Cirebon及びCikampek～Bandung間の鉄道電化により列車速度は大巾に向上し、客貨の輸送量が増加することによりインドネシア国鉄の経営面に寄与すると共にインドネシア国の経済発展にも大きく貢献することが期待される。 | | | | | 2. 主な理由 ① 電力供給側の供給状態が悪化。 ② 莫大な資金が必要 | |
| 11. 付帯調査・ 現地再委託 | なし | 5. 技術移転 | ① 研修員受け入れ：カウンターパート2名をJICA研修に参加 | | | | | | |
| 12. 経費実績 総額 コンサルタント経費 | 165,264 (千円) | | | | | | | 3. 主な情報源 ① | |

外国語名 Electrification Project of Main Line in Java

[F/S,M/P+(F/S),D/D]

案件要約表 (F/S)

ASE IDN/S 326/85

作成 1988 年 3 月
改訂 1992 年 3 月

| I. 調査の概要 | | II. 調査結果の概要 | | | | III. 調査結果の活用の現状 | |
|--------------------|--|---|--|-----|---------------------|--|--|
| 1. 国名 | インドネシア | 1. サイト 又はエリア | ジャワ島西部北バンテン地区 | | | 1. プロジェクト の現況(区分) | <input type="checkbox"/> 実施済・進行中 <input type="checkbox"/> 具体化準備中 <input type="checkbox"/> 実施済 <input type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 具体化進行中 <input type="checkbox"/> 遅延・中断 <input type="checkbox"/> 中止・消滅 |
| 2. 調査名 | カリアン多目的ダム建設計画 | 2. プロジェクト 予算 (US\$1,000) US\$1=1,050 ルピア | 1) 282,000 | 内貨分 | 1) 169,470 2) 3) | | |
| 3. 分野分類 | 社会基盤/水資源開発 | 3. 主要事業内容 | 内容 カリアン多目的ダム チラワンダム カリアン貯水地- テブルム川 分水トンネル チラワン貯水地- チチンタ川 分水トンネル K-C-C 地区のかんがい全施設 ランカスピトン下流 チウジュン川の河川改修 規模 ダム高 60.5m、ロックフィルダム 1.5×106 立方m ダム高 36m、ロックフィルダム 0.532×106 立方m 2.6径、最大通水量 8.0立方m/s 1,540mL 2.0径、最大通水量 2.7立方m/s 1,920mL 10,300ha Shur-Cut : 掘削 1,400,000 立方m 盛土 700,000 立方m 浮 滞 : 560,000 立方m (上記予算は1985年価格ベース) | | | (状況) 我が国に対する融資申請したが、遅延。 特記事項 本プロジェクトの東側にIBRDの資金でCisadane River Basin Development Project がその後実施された。ジャカルタへの上水供給が急がれるためカリアン-シサダン-ジャカルタへと原水を順送りする計画として見直しされようとしている。バンテン地区の開発がジャワ島では特に遅れておりイ政府は、プロジェクト早期実施の方針はまだ変更していない。両プロジェクトの統合が今後検討されることになろう。 (1990年12月現在) 実施は先延ばしにされたまま。 | |
| 4. 分類番号 | | 7. 調査の 目的 | | | | | 限られた水資源の最大限の活用 |
| 5. 調査の種類 | F/S | 8. S/W締結年月 | 1984 年 3 月 | | | 2. 主な理由 ① 相手国内の事情：資金不足 ② 米の自給が達成されたので、米作の為のプロジェクトの優先順位の低下。 | |
| 6. 相手国の 担当機関 | 公共事業省水資源総局 Ministry of Public Works, Directorate General of Water Resources Dev. | 9. コンサルタント | 日本工営(株) 三井共同建設コンサルタント(株) | | | | |
| 7. 調査の 目的 | 限られた水資源の最大限の活用 | 4. フィージビリティ とその前提条件 | EIRR 1) 14.30 FIRR 1) 2) 2) 3) 3) | | | | |
| 8. S/W締結年月 | 1984 年 3 月 | 条件又は開発効果 | 前提条件として、Cost Conversion factor : 0.92 経済便益：農業便益 (With-Without) 洪水防衛便益、都市及び工業用水供給便益 Project Life : 50年 (うち設計2年、建設6年を予定) である。 開発効果は、チウジュン、チラワン、K-C-C かんがい地区 (合計35,000ha) の開発、ランカスピトン市周辺への水供給、チレゴンへの工業用水供給及びチウジュン川下流域の洪水防衛等が期待される。 | | | | |
| 9. コンサルタント | 日本工営(株) 三井共同建設コンサルタント(株) | 10. 調査団 | 団員数 17 調査期間 1984.7-1985.7(13ヵ月) 延べ人月 国内 79.35 現地 26.04 53.31 | | | | |
| 10. 調査団 | 団員数 17 調査期間 1984.7-1985.7(13ヵ月) 延べ人月 国内 79.35 現地 26.04 53.31 | 11. 付帯調査・ 現地再委託 | 試料分析、測量、地形図作成、ボーリング調査、弾性波探査、材料体験 | | | | |
| 11. 付帯調査・ 現地再委託 | 試料分析、測量、地形図作成、ボーリング調査、弾性波探査、材料体験 | 12. 経費実績 | ① OJT : F/S でのかんがい施設設計、水分析、Project 評価等でセミナーを実施。 ② 現地コンサルタントの活用：地形測量、ボーリング調査で活用 | | | | |
| 12. 経費実績 | 総額 200,442 (千円) コンサルタント経費 200,692 | 5. 技術移転 | ① OJT : F/S でのかんがい施設設計、水分析、Project 評価等でセミナーを実施。 ② 現地コンサルタントの活用：地形測量、ボーリング調査で活用 | | | | |
| | | 12. 経費実績 | 総額 200,442 (千円) コンサルタント経費 200,692 | | | 3. 主な情報源 | ① |

外国語名 Karian Multipurpose Dam Construction Project

{F/S,M/P+(F/S),D/D}

案件要約表 (F/S)

ASE IDN/S 330/85

作成1988年 3月
改訂1992年 3月

| I. 調査の概要 | | II. 調査結果の概要 | | | | III. 調査結果の活用の現状 | |
|-----------------------------|---|--|---|---------------------|------------------------|----------------------|--|
| 1. 国名 | インドネシア | 1. サイト 又はエリア | メダン・スマラン・ソロ各都市 | | | 1. プロジェクト の現況(区分) | <input checked="" type="checkbox"/> 実施済・進行中 <input type="checkbox"/> 具体化準備中 <input type="checkbox"/> 遅延・中断 <input type="checkbox"/> 中止・消滅 <input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 具体化進行中 |
| 2. 調査名 | メダン・スマラン・ソロ電話網整備計画 | 2. プロジェクト 予算 (US\$1,000) US\$1=250円 | 1) 156,211 | 内貨分 | 1) 139,803 2) 3) | | |
| 3. 分野分類 | 通信・放送/電気通信 | 3. 主要事業内容 | | | | | |
| 4. 分類番号 | | 内容 | 規模 (2000年まで) | | | | |
| 5. 調査の種類 | F/S | (1) 新設端子数 (メダン) | 219,200 l.u. | | | | |
| 6. 相手国の 担当機関 | 郵電総局、 電気通信公社 (POSTEL, PERUMTEL) | (2) 新設端子数 (スマラン) | 149,500 l.u. | | | | |
| 7. 調査の 目的 | メダン・スマラン・ソロの3大都市の 電話網整備・拡充計画のフィージビリティ調査 | (3) 新設端子数 (ソロ) | 49,100 l.u. | | | | |
| 8. S/W締結年月 | 1984年 6月 | 計画事業期間 | 1) 1985.0-1990.0 2) 3) | | | | |
| 9. コンサルタント | 日本通信協力(株) | 4. フィージビリティ とその前提条件 | EIRR 1) 20.93 2) 3) | FIRR 1) 2) 3) | | | |
| 10. 調査団 | 団員数 18 調査期間 1984.11-1985.10(13ヵ月) 延べ人月 国内 81.21 現地 34.67 46.54 | 条件又は開発効果 | 前提条件は、工事は国際入札によりターン・キー・ベース契約で実施し、コンサルタント雇用(D/D)入札、審査、工事監督、完成検査等)すること。 工事費算出は、為替交換レート1USドル=1,100ルピア=250円とする。 開発効果としては、電話機密度を、0.27台/100人から1.56台/100人に増大させる。 ※各地区毎のFIRRは、メダン21.75%、スマラン20.90%、ソロ18.42%。 | | | | |
| 11. 付帯調査・ 現地再委託 | なし | 5. 技術移転 | ①研修員受け入れ：カウンターパート2名を日本に招請し1ヵ月間研修を実施。 ②カウンターパートに対し、OJTを実施。 | | | | |
| 12. 経費実績 総額 コンサルタント経費 | 192,347 (千円) 193,672 | | | | 3. 主要情報源 | ① | |

外国語名 Improvement Project of Telephone Network in Medan, Semarang and Solo

[F/S, M/P + (F/S), D/D]